



[びわこ・くさつキャンパス]

経済学部



■ 経済学科
国際専攻 / 経済専攻

複雑化する社会の「真の理解力」を磨き、社会で活躍できる力を培う

多くの情報に触れることができる現在、世の中のことについても、書物やインターネットから多様な知識や考えを得ることができます。では、大学で経済学を学ぶ意義はどこにあるのでしょうか。先生や友達など他者と対話し、社会問題に関するさまざまな知識や異なる考えに触れることで、正しく「問いを立てる」能力を培うことができます。理論の適用方法やデータの分析の仕方を学ぶことで「問いを深く分析する」ことができます。この結果を、論文やレポートとして作成し発表し、他者の意見を踏まえ研鑽することで、既存の知識や考えに妥当な判断を下すだけでなく、「新たな知識や考えを創造する」ことができます。

これらの能力を養うために、経済学部では次のメニューを用意しています。(1) 他者との学びあいを促進する4年間の小集団教育と、その集大成として独自のテーマによるゼミナール大会での発表や卒業論文の作成、(2) 自らの興味関心に合わせて受講できるユニット制、(3) 異文化に触れ、複眼的な視野を培う留学プログラムや、外国語で開講される科目を加えた履修プログラム。そして、養った能力を将来に生かすための(4) 財務・会計プログラム、(5) 卒業生の協力のもと行う就職活動支援(メントレ)。

経済学部で、共に学び、充実した学生生活を送りませんか。

専攻紹介

国際専攻

「外国語＋経済学教育＋海外経験」で、世界で通用する国際人を育成する。

グローバル化の進む経済・社会に対する洞察力・分析力を養うため、独自の外国語プログラムを展開し、海外留学や海外フィールドワークの機会を提供します。特に外国語教育では、英語と中国語のインテンシブコースを設置し、入学直後から現地で「使える」外国語を集中的に学ぶことができます。 ※留学プログラムや海外フィールドワークは内容が変更となる場合があります。

経済専攻

「理論＋現実＋実践」で、現代社会の諸問題を解決する人材を育成する。

社会生活の基盤となっている経済活動のメカニズムや市場の法則を解き明かし、より豊かな社会を創造していくために必要な考え方や手法の基礎を学びます。経済学を中心に法律や経営など他の社会科学や教養までを含めて段階的かつ総合的に学ぶことができます。

[2026年度 教員・研究テーマ一覧]

詳しくはこちら ▶



青木 芳将	経済政策	島田 幸司	環境政策、統合環境評価、環境行動分析
安達 有祐	都市経済学、地域経済学、応用計量経済学	申 雪梅	統計学、財政学、中国経済
池脇 信一郎	租税法、税務会計	曹 瑞林	中国経済論
市野 泰和	国際貿易理論、応用ミクロ経済学	高野 剛	社会政策
稲澤 泉	政策過程分析論(環境・エネルギー分野)、環境政策学、国際金融論	高屋 和子	現代中国経済研究
VIXATHEP Souksavanh	経済発展論、東南アジア経済論、ミクロ経済学	竹内 あい	実験経済学、ゲーム理論
江原 慶	社会経済学	寺脇 拓	環境経済学、農業経済学、非市場評価
大川 隆夫	応用ミクロ経済学	徳丸 夏歌	社会経済学、経済哲学、実験経済学
大塩 量平	西洋経済史、近代ドイツ語圏社会経済史、文化・芸術の経済史	中井 美和	環境経済学、環境政策、サステナブル投資
大野 敦	国際政治経済学、開発学、国際経済学	新形 敦	国際金融論
大橋 陽	現代アメリカ経済史、アメリカ経済論、政治経済学	西洋	日本経済、分析的政治経済学
小田巻 友子	社会政策	新田 耕平	実験経済学、行動経済学
柿中 真	国際経済学、公共政策、金融システム	野村 良一	ミクロ経済学
金丸 裕一	近現代中国史、東アジア経済史、アジアの神学	橋本 貴彦	社会経済学、経済統計学
川岸 岳人	マクロ経済学、動学マクロ理論	秦 劭	投資理論、行動ファイナンス
河音 琢郎	財政学、予算論、租税論	林 裕明	比較経済システム論、ロシア経済論
紀園 洋	産業組織論	播磨谷 浩三	金融論、産業組織論
木原 彩夏	会社法、商法	細谷 亨	日本経済史
栗原 由紀子	家政・生活学一般、地域研究、経済統計	堀 一三	契約理論
黒川 清登	開発経済学、地域経済学、防災経済学	MASWANA JEAN-CLAUDE	開発マクロ経済学、開発理論と政策、グローバル開発課題
森田 但馬	地方行財政論、地域経済論	松尾 匡	理論経済学
後閑 洋一	マクロ経済学、マクロ動学の理論、経済成長論	松本 朗	社会経済学、貨幣信用論、国際価値論
後藤 大策	行動開発経済学、行動環境経済学、応用ミクロ計量経済学	峯俊 智穂	観光経済、地域観光学、観光人材育成、世界遺産保護
小林 美月	多国籍企業、国際経営、自動車産業、ソフトウェア開発アウトソーシング	宮本 十至子	税法、国際税、EU税法
言美 伊知朗	マクロ経済学、国際金融論	桃田 朗	マクロ経済学、人口経済学
世尾 俊明	環境経済学、廃棄物の経済学、循環経済	吉岡 真史	マクロ経済、日本経済論、開発経済学
佐藤 隆	社会経済学、経済理論	LEE Kangkook	経済発展論、国際金融論、東アジア経済
佐野 聖香	農業経済学、開発経済学	李 翠盈	開発経済学、環境経済学、応用計量経済学
篠田 剛	財政、公共経済		

ゼミナール大会

〈研究成果発表を通して、社会で通用する力を鍛える〉

学生同士の知識の深め合いや研究意識の向上、また学部全体での研究力の向上を目的に、例年12月に開催される学術イベントです。毎年100チーム以上、約400名の学生が参加します。日ごろの調査・研究の成果を論文としてまとめてプレゼンテーションを展開します。コンテスト形式で評価され、会場は熱気にあふれた雰囲気になります。自らが設定したテーマについて徹底的に研究し、経済の専門家である教員や多くの学部生の前で成果を報告することにより、社会で役立つ課題発見・分析・解決の能力、プレゼンテーション能力を養います。



学び・プログラム

G-ALPs (Global and Active Learning Programs)

経済学部では、外国語運用能力の向上と経済的なセンスを磨くことに重点を置いています。外国語教育や経済学教育に加えて、海外留学やフィールドワークを通じて、国際化した経済・社会に対する洞察力を磨く体系的な国際教育プログラムを用意しています。具体的には、All English (中国語) 科目などを含む科目群やグローバル経済ユニットからの受講や、海外留学プログラムへの参加、また異文化交流の機会や留学経験者の体験談を聴講する機会 (G-ALPs企画) などがあります。国際専攻以外の方も受講登録可能となっており、経済学部全体での国際教育のレベルアップを目指します。



■ 経済学部生のための独自留学プログラム

海外アカデミックプログラム

海外で外国語を学び、
外国語で経済学を学ぶ。

海外の大学などで外国語を集中的に学ぶとともに、現地経済事情を外国語で学ぶことができます。プログラムへの参加を通じて国際分野で通用するコミュニケーション能力や専門性を身に付けます。

[2026年度派遣先 (予定)]

派遣先国	派遣先機関
オーストラリア	ホーソン・メルボルン英語学校
ニュージーランド	マッセイ大学
中国	大連外国語大学
中国	東北財経大学

※年度によって実施プログラム・派遣先が変更となる可能性があります。

海外フィールドワークプログラム

フィールドワークを通じて、
開発や環境の実態に触れる。

経済学部で学んだ知識を活用し、海外で調査・研究・発表に取り組みます。現地の人々と触れ合いながら、プログラムごとに設定されるテーマ (地域格差は正やツーリズム、環境と開発など) に関するフィールドワークに取り組みます。

[2026年度派遣先 (予定)]

派遣先国	派遣先機関
英国	JETRO (日本貿易振興機構)、JBIC (国際協力銀行) ほか
中国	上海対外経貿大学 ほか
ラオス	ラオス国立大学 ほか

海外インターンシッププログラム

海外ビジネスの現場から、
現代社会の経済を学ぶ。

日本企業・団体の海外オフィスや現地企業で実施するインターンシップです。多様な背景を持つ社員との就業体験や交流、世界の最前線のビジネス経験により、海外で働くことについて体験的に考えることができます。

[2026年度派遣先 (予定)]

派遣先国	派遣先機関
アラブ首長国連邦	日系・現地石油開発会社

専門キャリアプログラム

高度な専門性を求められる分野に関して、専門的キャリアの意識付けを行うために、財務・会計プログラムを設置しています。学びの集団を形成し、難関試験に挑む学生を支援します。

財務・会計プログラム

税理士や公認会計士、国税専門官、企業の財務担当職など高度な専門職を目指す人材を養成するプログラムです。簿記2級の資格取得を目指す科目などを用意しており、会計系難関資格取得へのステップアップも可能です。

■ 卒業生による経済学部就職活動応援企画「メントレ」を実施

社会の第一線で活躍する卒業生の協力を得て、学生の就職活動を組織的に支援。

年間を通じて「自己の価値を社会の中でどう生かすか」について考える経済学部独自のキャリア企画です。特に2日間にわたり全国から多くの卒業生を招く回では、自己分析の深掘り、エントリーシートの添削、面接の指導など、就職活動に必要な準備を行います。先輩だからこそできる熱心な指導に学び、参加者は就職活動において抜群の成果を上げています。



4年間の学び

回生	専攻を決めて入学	1回生	2回生	3回生	4回生		
学びの流れ	大学での学び方と経済学の考え方を学ぶとともに、現実の経済事情に触れます。	経済学の基礎を固め、関心ある専門分野の導入科目を学びます。小集団科目を通じて、その後のゼミナール選択につなげます。	ゼミナール「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「演習Ⅲ」での学修・研究を学びの軸に置き、計画的かつ主体的にユニット科目を学修することで、自らの学びをつくりあげます。	4年間の学びの集大成「卒業研究」の履修により、課題発見力・課題解決力を養います。			
小集団科目	基礎演習	実践経済演習Ⅰ	実践経済演習Ⅱ	演習Ⅰ 実践経済演習Ⅲ	演習Ⅱ 実践経済演習Ⅳ	演習Ⅲ 卒業研究 リクワイヤード経済学Ⅰ-Ⅱ	
外国語	国際専攻	英語インテンシブコース 中国語インテンシブコース					
	経済専攻	英語コース 2言語コース					
経済学 科 目	入門科目	コア科目			経済基礎		
	経済学入門 経済学入門	基礎ミクロ経済学 社会経済学初級a	基礎マクロ経済学 社会経済学初級b	経済学史 経済統計Ⅰ	日本経済史Ⅰ 日本経済史Ⅱ	民法Ⅱ 経済統計Ⅱ	
	ツール科目			計量経済学Ⅰ 計量経済学Ⅱ	日本経済論 マネジメント	社会経済学Ⅱ マクロ経済学Ⅰ	
	分析ツール/経済数学Ⅰ 情報処理演習	経済数学Ⅱ 基礎統計学	経済数学Ⅲ 情報処理	ゲーム理論 財政学	ミクロ経済学Ⅰ ミクロ経済学Ⅱ	マクロ経済学Ⅱ	
				会計学 金融論	社会経済学Ⅰ 民法Ⅰ		
				ユニット基礎		ユニット展開	
				環境経済概論 企業論 経済政策論 国際経済学	国際政治経済学 社会調査論 社会保障論 西洋経済史Ⅰ	グローバル経済 ユニット 経済政策 ユニット 労働・社会保障 ユニット ファイナンス分析 ユニット	ビジネス戦略 ユニット 環境政策評価 ユニット 地域マネジメント ユニット 歴史・思想研究 ユニット
	国際基礎						
	海外アカデミックプログラム 海外フィールドワークプログラム 海外インターンシッププログラム	英語ワークショップⅠ Introductory International Economics Introductory Macroeconomics 中国語経済学入門	英語ワークショップⅡ Introductory International Economics Introductory Microeconomics 中国語経済学	英語ワークショップⅢ Introductory International Political Economy Introductory Political Economy 中国語ワークショップⅠ	英語ワークショップⅣ International Business Introductory Political Economy 中国語ワークショップⅡ	中国語ワークショップⅢ	
	キャリア科目						
簿記入門Ⅰ	簿記入門Ⅱ	キャリアデザイン アドバンスミクロ経済学Ⅰ-Ⅱ アドバンスマクロ経済学Ⅰ-Ⅱ					

・上記は2026年度のカリキュラムです。2027年度は科目名称等が変更になる場合があります。
・学部の専門科目とは質的に異なる、幅広い分野の知識の修得を目指す科目を多数履修することができます。→ 教養科目 P.102

ユニット制 (多様な経済学分野を体系的に学び、深い専門的知識を身に付ける)

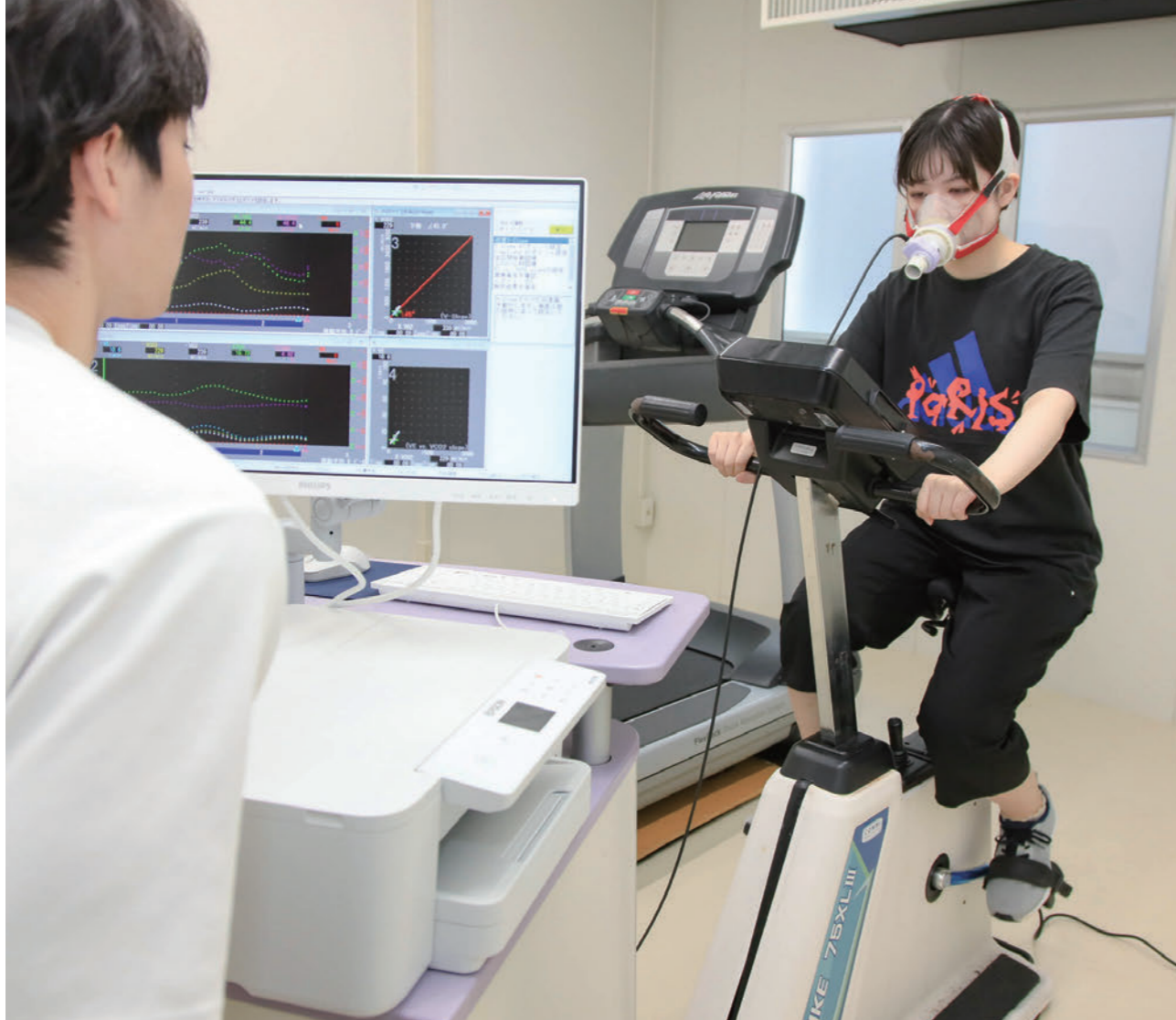
経済学が持つ多様な分野を分かりやすくするために、一定の関連性と系統性を持つ科目をパッケージ化しました。学生はゼミナール教員による履修指導のもと、ゼミナールの学修内容と深く関係するユニット科目を履修することで体系的に学ぶことができます。複数のユニットを並行して履修することも可能です。

グローバル経済 (18科目)	経済政策 (10科目)	労働・社会保障 (9科目)	ファイナンス分析 (12科目)
Applied Economics Development Planning and Public Policy Eurasian Economy EU経済論 Japanese Economy アジア経済論 アメリカ経済論 エリアスタディ 特殊講義 オープンマクロ経済学	開発経済学 国際開発プロジェクト・マネジメント 国際金融論 国際法 国際貿易論 多国籍企業論 中国経済論 比較経済論 国際課税	貨幣・信用論 税法 環境経済学 経済成長論 経済変動論 公共経済学 行政法 商法 地域経済学 地方財政論	医療経済論 企業と雇用システム 行政法 社会政策 生活経済論 地域福祉論 福祉経済論 労働経済論 労働法 会社法 企業税務論 金融市場分析実習 金融法 行動経済学 コーポレートファイナンス 財務諸表論 商法 ファイナンスエコノミクス
ビジネス戦略 (12科目)	環境政策評価 (9科目)	地域マネジメント (8科目)	歴史・思想研究 (4科目)
会社法 企業税務論 行政法 経済法 国際課税 財務諸表論 産業組織論	商法 税法 組織と制度の経済学 マーケティング論 行動経済学	環境経済学 食糧経済論 環境科学 環境経営論 環境経済評価論 環境政策 環境評価システム 環境法	観光経済論 文化経済学 社会思想史 西洋経済史Ⅱ 東洋経済史Ⅰ 東洋経済史Ⅱ

科目についての詳細は [オンラインシラバス](#) [立命館](#) [検索](#)

外国語の選択

(国際専攻) 英語インテンシブコース: [必修] 英語 / 中国語インテンシブコース: [必修] 中国語、英語
(経済専攻) 英語コース: [必修] 英語 / 2言語コース: [必修] 英語 [選択必修] 中国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、朝鮮語から1言語



[びわこ・くさつキャンパス]

スポーツ健康科学部



■ スポーツ健康科学科

「ヒト・ひと・人」を科学し、健康と幸福、世界平和に貢献する

スポーツ健康科学部では「ひと」が健康的で豊かに暮らすことを実現するため、生物学的な「ヒト」の最小単位である細胞や遺伝子から、臓器、人体、さらに「人」の集合体である集団まで、社会の幅広い課題について、多様な学問分野を連携させ、科学的に解決策を導き出していきます。例えば、世界規模の課題である肥満、生活習慣病といった健康の諸問題に対し、運動・身体活動効果のメカニズムを学んだ上で、地域の方々を対象にした運動教室を開催して健康を保つためのプランを提案するなど、実践的な研究を通して社会貢献を行っています。また、地域単位での運動やスポーツ習慣の定着・継続といった喫緊の課題に対する

取り組みとして、教育学やマネジメント分野の知見を生かし、さまざまな組織・チームを専門的な観点から教育、マネジメントするといった実務的な視点からの学びを実践しています。さらに、スポーツ競技力の向上のために不可欠な、最先端の科学的手法の確立やサポートについての学びなど、「スポーツ」や「健康」を総合的に学修することが可能です。

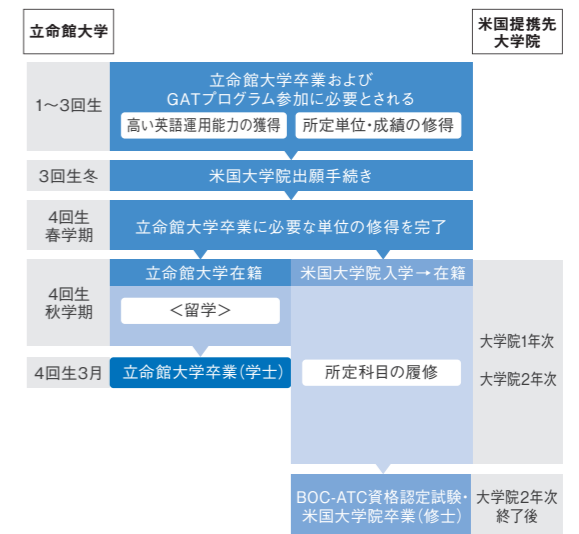
これらの学びにより、人々の健康、幸福な社会、平和な世界を創造するとともに、志高く未来を拓くことを目指します。

学び・プログラム

国際的に活躍できる米国のアスレティックトレーナーの資格取得を目指す (グローバル・アスレティックトレーニング (GAT) プログラム)

GATプログラムは、BOC-ATC (the BOC credential of "Athletic Trainer Certified": 米国公認アスレティックトレーナー) という資格取得を積極的に支援する、本学部独自の画期的な留学プログラムです。米国公認アスレティックトレーナーは、プロスポーツ選手から一般の人々の、活動(運動)中に起こる外傷の救急措置、傷害や疾病の予防・認知・評価、そしてリハビリテーションなどに関わる専門職であり、理学療法士や看護師などと同じ準医療従事者です。BOC-ATCの資格を得るためには、CAATE^{*1}公認のカリキュラムを持つ大学院を修了し、BOC^{*2}による資格認定試験に合格する必要があります。本プログラムは、CAATE公認のカリキュラムを備えた米国の大学院^{*3}と提携し、4回生の春学期終了時まで立命館大学の卒業に必要な単位の修得を終え、夏ごろから同大学院へ留学し、立命館大学の学士号と同大学院の修士号の双方を取得することで、BOC-ATCの受験資格を得られるよう設計されています^{*4}。また、GATプログラム参加を目指す皆さんを支援する「GAT Step-Up コース」を用意し、立命館大学在学中から、専門性、高い英語運用能力およびグローバルな視野を獲得し、国際的に活躍できるアスレティックトレーナーの育成を目指しています。

^{*1} CAATE: The Commission on Accreditation of Athletic Training Education
^{*2} BOC: Board of Certification, Inc.
^{*3} 2026年1月現在の提携先: East Stroudsburg University of Pennsylvania (ESU)・Spalding University (SU)・The University of North Carolina at Greensboro (UNCG)
^{*4} 所定の基準を満たした場合にのみ申請可能な早期卒業制度を利用した場合は、フローが異なります。



※上記は一例であり、大枠を記載した略図です。実際の詳細なスケジュールは立命館大学および米国提携先大学院の学年暦に準じます。※本学入学後、最終的に2つの学位を取得するには、少なくとも5年数カ月を要することとなります。

GAT プログラム 詳細はこちら ▶



自分のテーマで主体的に学ぶ「PBL科目」

PBL (Project/Problem Based Learning) は、スポーツ健康科学部で学んだ知識とスキルを実践の現場で活用する授業です。2回生の1年間を通じ、自分のテーマを持ってプロジェクトをつくり上げていきます。実際のスポーツ競技のパフォーマンス分析や健康指導に関わるアセスメント、運動実施に伴う生理応答や運動と認知機能の関係、子どもたちにスポーツを教えるプロジェクトやチーム・マネジメントを実践するプロジェクトなど、各自の関心のあるテーマを突き詰め、社会的・学術的に意義のあるプロジェクトを生み出すことを目標としています。さらに、このプロジェクトの経験を3・4回生の専門演習(ゼミナール)・卒業研究に結実させていくことができます。

プロジェクト例	ビジネスプランコンテストに挑戦/地域スポーツ科学センターを利用するアスリート・一般の方向けの体力向上プロジェクト/東レアローズ (SVリーグ) ホーム戦PR/草津市教育委員会_小中学校体力向上プロジェクト/イオンモールで自然に健康になれるプロジェクト/スポーツ×VR/国スポ障スポ滋賀2025に補食ブースを作ろう 他
---------	--

キャリア形成と学びの融合「プロフェッショナル・キャリア形成科目」

スポーツ健康科学分野におけるより高度な専門性を身に付け、習得した知識とスキルを実践で生かします。また、スポーツ健康科学分野に関連する資格取得や実践に不可欠な知識とスキルを身に付け、自らのキャリアを切り拓くために必要な知覚と感性を磨きます。

■ 国内・海外でのインターンシップ

現場での就業体験を通して、学んだ理論をどのように活用できるのかを実感できるインターンシップを国内外にて実施。「クリニカルATインターンシップ(海外)」では、米国公認アスレティックトレーナーのもと、英語で専門的な研修を積み、コミュニケーション能力や実践力を高めます。



■ スポーツ指導実習

教職を目指す学生が体育授業やスポーツにおける指導方法を学び実践します。指導者の視点に立ち、対象者の動きを「観察→分析→解釈→指導(表現)」することを学びます。



4年間の学び

多様な学問分野を連携させ、科学的に解決策を導く

系統的なカリキュラムで低回生時には基礎的学力を鍛えるだけでなく、1回生秋学期より専門的な科目を学び始め、高回生時には多様な関心や目指す進路に応じて学びを深めます。4つの領域(スポーツサイエンス領域・健康運動科学領域・スポーツ教育学領域・スポーツマネジメント領域)からなる専門科目を、所属に縛られることなく横断的に学び、その学際的な学びを応用し「分野を超えた挑戦」を実践します。

回生	1回生		2回生		3回生		4回生		
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
セメスター	春学期		秋学期		春学期		秋学期		
学びの流れ	将来に向けて視野を広げ、経験する 大学へ入学し、設定した目標や夢を実現するために基礎力を養う時期です。高校での学修を基礎とし、新しい学びに触れることができます。		[進路]へのイメージを掴む 「自分のテーマでスポーツ健康科学」を実行し、PBL科目で主体性を磨きます。社会との関わりを通じて、掲げた目標達成のために挑戦をします。		進路選択に向けてキャリアを考える 就職活動や教員採用試験等、卒業後の進路が明確化されている時期です。また、セミナーに所属し、興味のある分野を深めることができます。		キャリア形成の確立・研究成果の発信 「卒業論文」の執筆に向け、実験や調査を繰り返している時期です。少数教員のゼミナールのため、教員と一体となって研究を進めることができます。		
基礎科目	英語P1 英語S1	英語P2 英語S2	英語P3 英語S3	英語P4 英語S4					
基礎科目	講義	スポーツ健康科学原論 ヒト・ひと・人の倫理と哲学 身体の構造と働き ヘルスポモーション (衛生学および公衆衛生学を含む)	スポーツ健康科学と データサイエンス スポーツ健康 科学と未来						
	演習	基礎演習Ⅰ	基礎演習Ⅱ						
領域科目	スポーツサイエンス領域		スポーツサイエンス概論	バイオメカニクス論	スポーツ生理・生化学	トレーニング科学 パフォーマンス測定評価方法論	スポーツ情報科学		
	健康運動科学領域		健康運動科学概論	健康運動栄養・生理学 (基礎健康科学)	運動・栄養処方論 (応用健康科学)	健康運動評価方法論 スポーツ医学	生活習慣病論		
	スポーツ教育学領域		スポーツ教育学概論	インクルーシブ体育・ スポーツ論	スポーツ コーチング論	スポーツ栄養教育学 スポーツ心理学	スポーツ教育 実践学		
	スポーツマネジメント領域		スポーツマネジメント概論	組織心理学	ビジネス戦略論	マーケティング論 リサーチメソッド	ソーシャル イノベーション論		
融合科目	講義・演習		PBLⅠ	PBLⅡ		専門演習Ⅰ	専門演習Ⅱ	専門演習Ⅲ	専門演習Ⅳ 卒業論文
プロフェッショナル・ キャリア形成科目	簿記入門		スポーツ健康科学 セミナー インターンシップ(国内) インターンシップ(海外) サブスライミング クリニカルAT インターンシップ(国内) クリニカルAT インターンシップ(海外)	エクササイズ プログラミング 実習Ⅰ	学校保健学 エクササイズプログラミング実習Ⅱ スポーツ指導実習A(球技:ゴール型) スポーツ指導実習A(球技:ネット型) スポーツ指導実習B(共通) スポーツ指導実習B(陸上競技) スポーツ指導実習B(水泳) スポーツ指導実習B(ダンス) インクルーシブ体育・スポーツ実習 インターンシップ(健康運動指導士)				

・上記は2026年度のカリキュラムです。2027年度は科目名称等が変更になる可能性があります。

・学部の専門科目とは質的に異なる、幅広い分野の知識の修得を目指す科目を複数履修することができます。→ 教養科目 P.102

科目についての詳細は [オンラインシラバス](#) [立命館](#) [検索](#)

外国語の選択

[必修] 英語

スポーツ健康科学分野において国際レベルの研究活動の主要言語である英語を専修とし、英語運用能力とコミュニケーション能力の向上を目指します。

4つの領域を融合したスポーツ・健康科学を学ぶ

理学・工学・保健衛生学・医学・体育学・教育学・経済学・経営学・栄養学など総合的・学際的な領域である、スポーツ・健康科学分野を幅広く学びます。



施設・教員紹介

最先端の教育・研究を実現する

スポーツ健康科学部の実験・研究施設は、「インテグレーションコア」という建物に集中しており、最先端の機器や設備を導入した、可能性に満ちた教育環境です。多様な実習科目や研究活動で利用します。

■ スポーツパフォーマンス測定室

ハイスピードカメラやモーションキャプチャなどで運動動作の計測・解析を行います。



■ MRシステム

体内の状態や脳内の動きを調べ、高度な研究に活用します。



■ スポーツ健康指導実験室

筋パワーや持久力を測定する装置や、人間の体型を3次元で解析する装置などがあります。



■ 栄養調理実習室

競技力向上につながるメニューを実際に調理でき、「食育」の実践にも活用します。



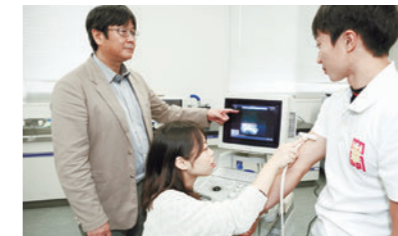
■ エネルギー代謝測定室

1日のエネルギー消費量を正確に測定することが可能です。



■ 超音波診断装置

運動前後の血管の健康状態や筋肉・脂肪の厚さなどを測定します。



■ 低酸素実験室

低酸素下でのトレーニングが身体に与える影響を解析します。



■ トレーニング指導実習室

機器を使ったトレーニング指導技術を習得することができます。



■ BKCスポーツ健康 commons

日本水泳連盟公認の室内温水プールや流水プールがあり、学んだ「理論」を実地確認できます。

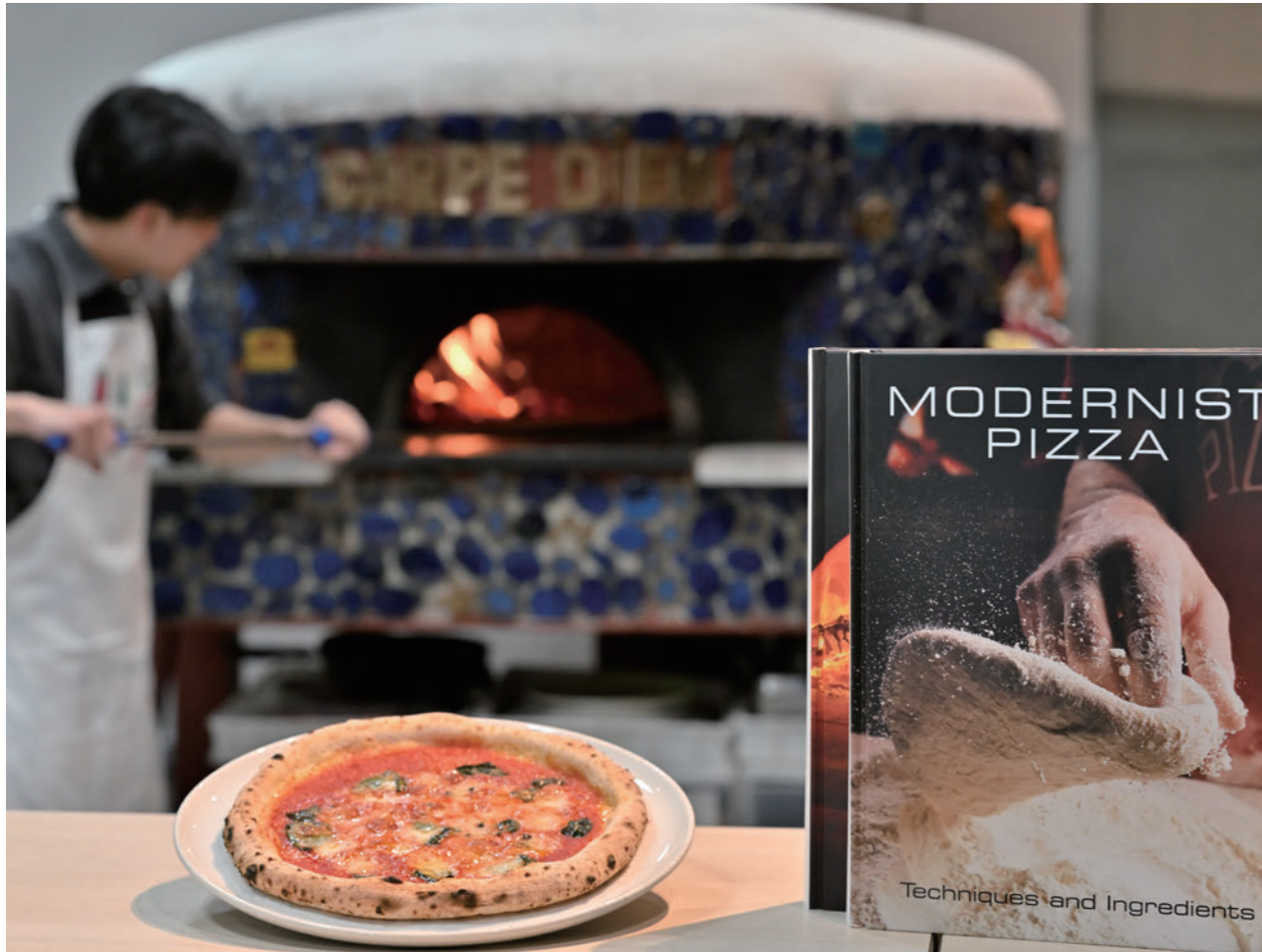


[2026年度 教員・研究テーマ一覧]

スポーツサイエンス	スポーツ教育学
家光 素行 運動および栄養摂取が競技力や健康に及ぼす効果と機序解明に関する研究	上田 憲嗣 子どもの身体と運動の発育発達と体育・スポーツ指導に関する研究
伊坂 忠夫 スポーツ競技力ならびに日常活動を高めるための応用バイオメカニクス	海老 久美子 栄養の支援と食教育の効果についての研究
後藤 一成 競技力向上および健康増進のためのトレーニングやコンディショニングに関する研究	大友 智 スポーツ指導場面・体育学習場面における教授・学習に関する研究
塩澤 成弘 スポーツ・健康・医療分野の生体計測センサ/デバイスに関する研究	河井 亨 「大学生の学びと成長」に関する理論的・実証的・実践的研究
長野 明紀 人体の運動制御のメカニズムに関する研究、運動機能向上のための工学的支援	笹嶋 育子 競技力向上を目的としたメンタルトレーニングの効果およびスポーツにおける対人援助に関する研究
藤田 聡 効率的な骨格筋肥大を目的とした運動と栄養摂取に関する研究	永浜 明子 「ひと」についての問い、インクルーシブおよびアダプテッド体育・スポーツのあり方、運動が苦手な児童・生徒の体育づくり
健康運動科学	スポーツマネジメント
真田 樹義 生活習慣病および介護予防のための運動処方研究、異分野の連携がもたらす価値創造	山平 芳美 諸外国におけるスポーツおよび体育科教育に関する研究
篠原 靖司 機能解剖学的アプローチによるスポーツ傷害に関する研究	安 邦 スポーツ消費者経験のビジネスおよび社会的アウトカムに関する研究
清家 理 1. 認知症の人と家族に対する非薬物介入と効果検証(認知症や抑うつ予防) 2. Community design for Diversity & Inclusion and Well-being	長積 仁 スポーツとまちづくり、組織に対する支援の波及性
橋本 健志 競技力向上や健康増進のための有効な運動・栄養処方の開発に関する研究	平井 祐理 企業におけるデータ利活用に関する研究、オープンイノベーションに関する研究
村上 晴香 運動行動誘発を通じた健康づくりに関する研究	山浦 一保 信頼ベースのリーダーシップとチーム力向上に関する心理学的研究
	英語科目担当教員
	祐伯 教史 言語理解や習得のプロセスについて研究・解明する

詳しくはこちら ▶





[びわこ・くさつキャンパス]

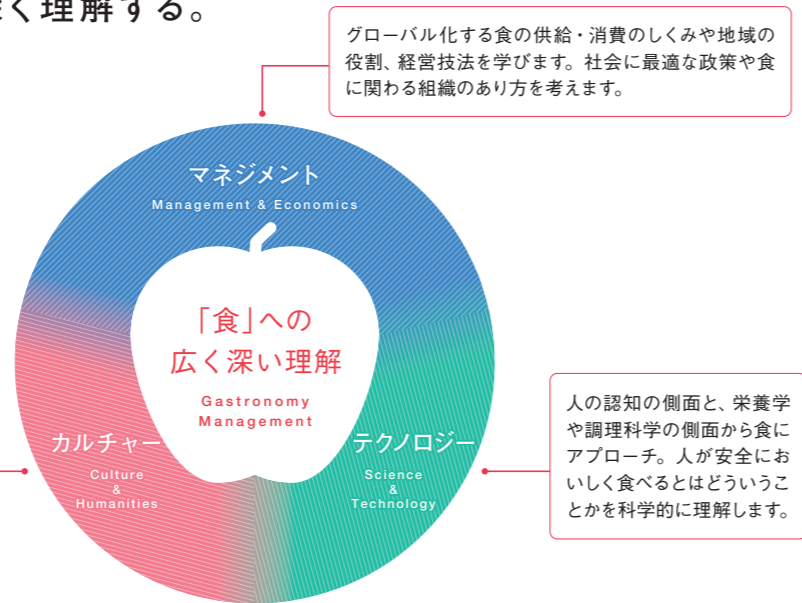
食マネジメント学部



■ 食マネジメント学科

食を多面的に捉え、広く深く理解する。

人間社会に広く深く結びついている食。食マネジメント学部では、食を「マネジメント」、「カルチャー」、「テクノロジー」の3つの観点から多面的に捉えます。3つの観点全てを総合的に学ぶことで、食への広く深い理解を促します。



学部の特徴的な学び

「マネジメント」、「カルチャー」、「テクノロジー」の総合的な学びと実社会に通じたアクティブな学びで、課題解決力・実践力を身に付けます。

総合講義

食文化、ビジネス、地域経営、起業、ジャーナリズム、国際展開などをテーマに、食に関わる現場で活躍する実務家、企業の役員の方、研究調査を行っている方など多様なゲストを招くリレー講義です。食の持つ可能性に視野を広げ、学部での学びが現場にどのようにつながるかを総合的に理解することができます。

ガストロノミックスタディプロジェクト

希望者を対象に、企業・地方自治体や海外の教育機関などとの連携のもと、グループ活動を通じて課題を見出し、実践する科目です。課題解決力や、異文化理解能力、コミュニケーション能力を磨きます。

※本プログラムについては、大学の学費とは別に、プログラム参加費等が必要になる場合があります。

PICK UP!

国内 ガストロノミックスタディプロジェクトI

地域の課題を解決するために、教室で検討した地域課題を踏まえて実際に現地を訪問し、仮説がどうなのか、また自分たちで取り組めることは何なのかを具体的に検討し、できることを実施するプログラムです。また、他の地域の状況なども踏まえて、先方の地域に可能性などをフィードバックしていくことを行っています。



国内 ガストロノミックスタディプロジェクトIII

GSPは、地域課題を受講者自らの考えで検討し、解決を試みるプログラムです。この授業では、地域の「食」の歴史や魅力を観光事業に生かしていくために、地域の人々と連携し、ガイドマップ作りを行いました。



学部独自の海外プログラム

[開講予定 海外プログラム] イタリア、ブルガリア、ベトナム、シンガポール

海外 ガストロノミックスタディプロジェクトI (イタリア)

中央イタリアから北イタリアを巡り、それぞれの滞在地で生産現場を訪ねて生産者と出会ったり、地域食材を試したり、ジェラート・ユニバーシティやチョコレートワークショップなどを体験します。最後は食科学大学での集中講義で締めくくります。



海外 ガストロノミックスタディプロジェクトI (ブルガリア)

ブルガリアの地域に根差した食文化を体験しながら、食を通じた異文化交流と地域活性化の可能性を探るプログラムです。一流シェフの指導による調理実習や保存食祭りへの参加、地元生産者との交流を通じて、多様な視点からガストロノミーの役割や食の新たな価値創造について考えます。



その他の正課・正課外活動について詳しくはこちら ▶



4年間の学び

回生		1回生	2回生	3回生	4回生
学びの流れ		〈移行期〉 食に関する多様な学問分野を関連付け、高度なマネジメント能力を身に付けるための基礎を培う期間、および基礎から発展への移行期間です。		〈発展期〉 3領域に展開する専門科目の学習を深める期間です。	〈総合期〉 4年間の学びの集大成として卒業研究を完成させる期間です。
外国語科目	第1外国語科目 (英語)	Study Skills α 1 Study Skills β 1 CALL1	Study Skills α 2 Study Skills β 2 CALL2	English Workshop English for Career Development	
	第2外国語科目 <small>フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、中国語、朝鮮語から1語種選択 (○語には選択した語種が入る)</small>	○語基礎1 ○語基礎2	○語展開1 ○語展開2		
基礎科目Ⅰ		食と経営学(※)	マーケティング論 食と経営学(※)	マネジメント論 ミクロ経済学 一戦略・公共財・制度政策	マクロ経済学 一成長・開発・SDGs
基礎科目Ⅱ		食科学探究Ⅰ 食科学のための情報処理(※)	食科学探究Ⅱ 食科学のためのデータ分析1	食科学のためのデータ分析2	
マネジメント科目		流通論 簿記入門	フードシステム論	アカウンティング 経営組織論	行動経済学 マーケティングマネジメント 経営戦略論 管理会計論
学際マネジメント科目			食と環境	食品安全管理と公衆衛生 食と地域振興	国際経済学 人的資源管理論 産業組織論 組織行動論
カルチャー科目		食の人文学	食科学のための調査技法	食の歴史学 食の行動文化学 食の地理学 食の思想文化学	食のグローバルストーリー 食のクロスカルチュラル・スタディ 食のエリアスタディ
テクノロジー科目		食品生化学 食品化学	栄養学 食品化学	食の安全の基礎 食と先端技術	食と認知科学 応用栄養学 資源循環論 食事機能科学 食と健康
総合講義		総合講義Ⅰ (世界の食と経済) 総合講義Ⅱ (日本の食と経済)	総合講義Ⅱ (食ビジネスの現在) 総合講義Ⅲ (グローバル化と食ビジネス)	総合講義Ⅲ (食サービスの経営) 総合講義Ⅳ (食とメディア)	
専門外国語科目			Cross-cultural Workshop Business Communication Workshop	Food Business Workshop	
初等PBL科目			ガストロノミックスタディプロジェクトⅠ		
初等WS科目			食品機能評価学 おいしさと調理科学		
初等演習科目		基礎演習	入門演習Ⅰ	入門演習Ⅱ	入門演習Ⅲ
専門PBL科目				ガストロノミックスタディプロジェクトⅡ ガストロノミックスタディプロジェクトⅢ	
専門WS科目				食品開発 食認知科学研究法	官能評価学
専門演習科目				専門演習Ⅰ	専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 専門演習Ⅳ
卒業研究					卒業研究(※)

(※)は必修科目
 ・学部の専門科目とは質的に異なる、幅広い分野の知識の修得を目指す科目を多数履修することができます。 → 教養科目 [P.102](#)
 科目についての詳細は [オンラインシラバス](#) [立命館](#) [検索](#)

外国語の選択
 [第1外国語] 英語
 [第2外国語] フランス語 / イタリア語 / スペイン語 / ドイツ語 / 中国語 / 朝鮮語 から1語種

[2026年度 教員・研究テーマ一覧]

マネジメント	詳しくはこちら ▶
太田 達	文理解融合の観点から食の経営戦略における分野横断的かつ新たな学問領域の開拓
小沢 道紀	地域の食に関わるマーケティングおよびマネジメント
川村 哲也	実験・行動経済学に基づく食の選択行動と食関連産業の制度設計
工藤 春代	食のリスク管理、フードシステム研究
光斎 翔貴	ライフサイクル思考における資源循環・安定供給・環境影響・生物多様性
酒井 純美	食関連企業の財務会計および監査・株主優待に関する研究
嶋田 敏	サービスプロセスの品質管理に向けたサービス工学、サービスマネジメント
高田 剛司	地域経営、観光まちづくり、ガストロノミー・ツーリズム、商店街振興
谷垣 和則	食を含むグローバル企業の展開、グローバル化と各国文化の尊重
西村 直子	行動・実験経済学、食品などのリスク選択、持続可能性のためのフューチャーデザイン
張本 英里	アジアにおける日系食品企業のマーケティング戦略、伝統的市場での流通戦略
藤 仁美	食にまつわる組織の中人間行動、ワーク・ライフ・バランス
山口 美輪	持続可能で健康的な食環境に関する研究
山田 貴子	産学官地域連携による経済的価値と社会的価値両立型オープンイノベーション
吉積 日貴	持続可能な地域づくり、住民参加型環境管理、持続可能な発展のための教育(ESD)
SUR PRAMOD KUMAR	開発経済学、労働経済学、食を含む発展途上国での問題に関する研究
カルチャー	
荒木 一規	食の地理学、フードシステム、フードチェーン、大規模災害、食の安全保障
阿良田 麻里子	食文化の人類学的研究、インドネシアの食文化、ハラール、グローバル化
石田 雅芳	イタリア食文化、スローフード運動、食のアクティズム
テクノロジー	
鎌谷 かおる	漁業史、人と自然の関係史、近江国の歴史、食の日本史
木村 裕樹	食と地域に関する民俗学的研究、日本の職人と民具
南 直人	ドイツを中心としたヨーロッパの食の歴史研究、食文化研究全般
安井 大輔	食と農の社会学的研究、フードスタディーズ、食に関する社会調査の方法論
保田 幸子	正義論・ウェルビーイング論・食をめぐる応用倫理研究
YOTOVA MARIA Ivanova	ヨーロッパ人類学、乳食文化、ご当地ヨーグルト
官能評価実習室	
國枝 里美	食品における匂いの役割と人の味覚の役割、官能評価、消費者調査
巽 美奈子	食の社会学・栄養の社会学・レシピ分析・栄養教育論
筒井 俊之	疫学的アプローチを用いた食の安全に関する研究
冨永 美穂子	食品や料理のおいしさに関する研究、分子調理
増山 律子	骨・カルシウム恒常性維持に必要な栄養条件の検討
保井 智香子	応用健康科学、スポーツ栄養学、健康教育、栄養教育
和田 有史	人間の五感による感覚・知覚メカニズム、消費者認知
英語科目担当教員	
宇佐美 彰規	グローバルビジネスの現場における英語での異文化間コミュニケーション問題
大和田 和治	英語教育学、異文化遠隔教育
清水 裕子	英語教育学、言語テスト、English for Academic/Specific Purposes
中国語科目担当教員	
加部 勇一郎	中国文学、物語と図像、児童文化

専門演習 (ゼミナール)

3回生から始まる「専門演習 (ゼミナール)」は、1・2回生までの学びや知識を担当教員の下で、より深めることができます。所属クラスは多種多様な演習テーマの中から、個人の問題意識や興味・関心に基づき、自分自身で選択します。専門演習で身に付けた知識や経験が卒業研究につながっていきます。

PICK UP! 高田ゼミ

「食による地域デザイン」を演習テーマとしている高田教授の専門演習 (以下、高田ゼミ) では、三重県伊勢市の中心市街地を対象にフィールドワークや研究活動を行っています。毎年、高田ゼミの3回生が伊勢やまだ大学 (伊勢市商店街連合会) と連携し、近年は、コロナ後の新たな賑わい創出を目指すワークショップやカフェなどの社会実験に取り組みました。4回生になると、3回生での経験を生かして、各自の関心がある「食」と「地域」についてテーマを決定し、卒業研究に取り組んでいます。

高田教授のコメント 私のゼミでは、一つのプロジェクトを協力して成し遂げることに大変さと楽しさを体験してほしいと思っています。そして「食」が地域活性化の重要なコンテンツになることも実感してください。

[所属ゼミ生からの声] フィールドワークや卒業研究でのヒアリング調査、中間発表を通して、「話を聞き出す力」や「疑問を見つける力」、「論理的に組み立てる力」を身に付けることができました。

地域の方々とのディスカッションを通じて、インターネットで調べるだけでは得られない「生の声」をたくさん聴くことができました。そして、地域のことを内側から深く知ることができました。

就活体験談や卒論の進め方の発表などを通してゼミ内の先輩と後輩が交流する機会があり、先輩が経験してきたことを学ぶことはとても貴重でした。

卒業研究

卒業研究は4年間の学びの集大成として位置づけています。各自が興味関心をもとにテーマ設定をして、専門演習 (ゼミナール) を中心に研究を進めます。

[2025年度優秀論文者のテーマ (一例)]

マネジメント	カルチャー	テクノロジー
<ul style="list-style-type: none"> 食品添加物に関する消費者のイメージおよび選択行動に関する研究 飲食チェーン店におけるキャラクターコラボレーションの効果 ファームステイが体験者の進路選択やキャリア形成に与える影響～宮出珈琲園を事例に～ 地理的表示 (GI) 保護制度登録の活用による小規模産地の持続可能性に関する研究～水口かんぴょうにおける実態分析と消費拡大に向けた実践～ 	<ul style="list-style-type: none"> 京都市内におけるヴィーガン・ベジタリアン飲食店の実態と多文化的配慮～インバウンド観光と地域共生の両立を目指して～ 学校給食が児童の食行動に与える影響～空間構造の違いから考える食育のかたち～ 文化的アイデンティティと移民の共生に関する食指標研究～スペイン、バスクのピトリアを中心に～ 食の場を彩る伝統デザイン：東欧料理店の事例からみる異文化体験の演出 	<ul style="list-style-type: none"> 乳化剤による手ごねパンの風味と食感改善効果 惣菜の保存料に対する消費者意識調査～スーパーのポテトサラダから食品ロス削減へ～ 摂食後早期の時計遺伝子の発現が与えるカルシウム吸収調節への影響について 大学生女子長距離選手における疲労骨折既往歴と食生活・栄養摂取状況に関する研究

学部独自の施設

人の味覚や嗅覚、食品リサイクル、調理に関するフードテクノロジー関連授業で使う実習室をはじめ、アクティビティやグループ学習のためのスペースなど、学部独自の施設・設備を揃えています。

<p>■ 官能評価実習室</p> <p>食品フレーバーの特徴や違いについて人の感覚や嗜好を測定できる実習室です。</p> 	<p>■ ナポリのピッツァ窯</p> <p>講習会などの課外活動で利用するナポリのピッツァ窯をキャンパス内に設置しています。</p> 	<p>■ ハーブガーデン</p> <p>食べられるハーブや実験に使用する果樹類を栽培しているガーデンです。</p> 
<p>■ ラボキッチン</p> <p>授業での調理実習のほか、授業外のアクティビティにも使えるキッチンです。</p> 	<p>■ コモンラウンジ</p> <p>食マネジメント学部・研究科生専用のラウンジです。</p> 	<p>■ 調理学実習室</p> <p>食材をよりおいしく調理するための知識・技法を学びます。</p> 



[びわこ・くさつキャンパス]

理工学部



- | | | | |
|--------------------|--------------------------|------------------------|----------------------------|
| [数学物理学系] | [電子システム系] | [機械システム系] | [都市システム系] |
| ■ 数理学専攻
■ 物理学専攻 | ■ 電気電子工学専攻
■ 電子情報工学専攻 | ■ 機械工学専攻
■ ロボティクス専攻 | ■ 環境都市工学専攻
■ 建築都市デザイン専攻 |

確かな基礎と幅広い応用力を身に付けて、技術開発の第一線で活躍

めまぐるしいスピードで科学技術が変化・進展を続ける今、最先端の知識・技術を身に付けても、短期間で時代遅れとなります。大切なのは、未知の理論や新技術を探求し応用する力であり、それらを自分のものとして修得するために必要な理工系共通の基礎的な学力と、論理的思考力・分析力を身に付けていることです。確かな基礎を築いておけば、新しいことも専門分野以外のことも吸収して、研究開発の第一線で長期にわたって活躍できます。理工学部でこうした基礎および応用力を身に付けることは、将来、自らのキャリアを多方面に展開することにつながり、強みとなります。イノベーションは、従来の理論や技術の延長だけではもはや難しく、自身の専門と異なる分野を横断的に眺める機会を持つことこそが、新価値創造に向けての目を養う訓練になります。

それができるのも理学から工学まで、ハードウェアからソフトウェアまで幅広く学問分野を持っている理工学部だからこそ。今後、科学技術の研究・開発を担う人材は、高いレベルの外国語運用能力が必要です。高い次元での外国語によるコミュニケーション能力を身に付けるため、専門分野をより意識した学科独自の外国語教育を充実させています。さらに、学部から大学院までの6年間を見据えた一貫性のあるカリキュラムを展開し、専門領域の学びを基礎から応用へと深める教育を行っています。4回生から所属する研究室では、学部生と大学院生がチームで研究を行い、知識と技術の修得を確かなものにするとともに、技術者・研究者に必要なコミュニケーション能力を磨きます。

学びの特色

自発的学びへ導く

■ 物理駆け込み寺・数学学修相談会

物理・数学に関するよろず質問相談所

予約不要で、物理・数学に関するさまざまな質問・悩みに答えてくれるサポートルームを常時開設しています。理工学部の教員だけでなく3回生から大学院生までさまざまな学科の学生講師が、個別に質問に対応し、単に答えを教えるのではなく、考え方を議論するなど学びあいの場として機能しています。



■ 低回生研究室体験制度

早期の研究室体験による学修意欲の向上

低回生時に研究室を体験でき、教員指導の下、研究の一端に触れる制度です。簡単な実験や先輩学生との交流の経験は、4回生の研究室配属に向けて自身が深めたい専門分野を考えるきっかけになります。また低回生で学ぶ専門科目の内容が、今後の学修や実際の社会にどのように関わるのかイメージを膨らませることができ、学修の意欲を高めることができます。



技術に触れる

■ 技術者のキャリア

リレー形式で行う技術者の講演

理工系学生の進路とされる業種の技術者を招き、リレー形式で行う科目を配置しています。技術者から、最新の技術開発動向や、技術者に求められる資質等を講演いただきます。将来の職業観や職業適性についての意識を高めます。

■ ワークショップラボ(工作センター)

設計・制作・加工を通じた実践力育成

さまざまなモノづくりに必要な旋盤、フライス盤、NC工作機械などの設備を備え、道具や作業工程に関するアドバイスを受けることができます。



視野を広げる・主体性をのばす

■ 専門ゼミナール

学科横断型の専門科目

学科・回生横断型の「専門ゼミナール」では、専門の異なる学生同士がグループで多角的な視野で調査、分析、提案を行います。他学科の学生と議論してさまざまな専門分野に触れることで、自身の専門分野の理解をより深め、多面的な課題解決能力を身に付けることができます。また上回生と下回生が回生を越えてつながり、学生同士の学びあいを進めています。



■ ピアラーニングスタジオ

ピアラーニングスタジオは、学生・院生が学科や専攻を越えて学びあうための空間です。グループでの議論や交流はもちろん、個人研究に集中できる静かな環境も整い、それぞれの学習スタイルに合わせて自由に活用できます。



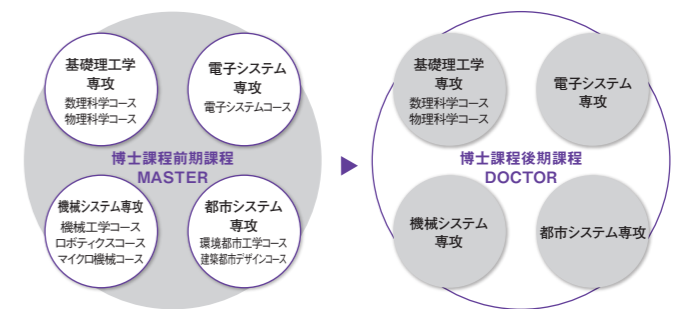
※2026年リニューアルオープン

専門性を高める

■ 大学院進学

高度理工系人材として、活躍できる力を身に付ける

理工学部では、理工学研究科(大学院)への進学を推奨しています。理工学研究科では専門領域における問題設定・解決能力をもって科学技術の発展に寄与し、社会を健全な形で維持・改善していくために研究を進めています。そして、社会が抱える多様な問題の解決に貢献すべく、理工学の専門領域における高度な知識と技術に加え、創造的な発見・研究能力を兼ね備えた研究者、高度専門職業人の育成を目指しています。



学科紹介

科目についての詳細は [オンラインシラバス](#) [立命館](#) [検索](#) 各学科についての詳細は [理工 立命館](#) [検索](#)

数理科学科 (数学物理系) ※数理科学科は、数学コースとデータサイエンスコースの2コースで構成されています。

幅広い領域での数学の研究・活用を通して人類の福祉と発展に貢献する。



卒業研究のセミナーの様子

本学数理科学科は、前身の数学物理学の時代から、研究者・教員・公務員・技術者などの幅広い領域で活躍する卒業生を輩出してきました。数学という普遍的性格を持つ学問を学ぶことで身に付く論理的思考力と発想力が、それぞれの現場で生かされています。特に、確率論・数理ファイナンスの教育カリキュラムによって金融関連分野を得意とする卒業生が多いことが本学科の著しい特長です。2020年度より導入されている2コース制でも現代数学の修得が軸となっており、低回生で学ぶ線形代数と微積分学を基礎として、より専門的な代数学・幾何学・解析学を学んでいきます。さらに、データサイエンスコースでは、確率論・数理ファイナンスを軸としてデータサイエンスを基礎から学べます。また、数学コースでは、教員・研究者志望者を対象とした少人数ゼミや数理物理学を系統的に学べるプログラムが配置されています。



・今後、科目名称等が変更になる場合があります。・「卒業研究」は必修です。卒業には上記以外も学ぶ必要があります。・上記は2026年度のカリキュラムです。

[2026年度 教員・研究テーマ一覧]

- ◆青井 久 フォノイマン環の構造解析
- ★赤堀 次郎・小山 翔平・田中 洋平 確率論
- ◆大坂 博幸 関数解析、作用素論、作用素環論
- ◆加川 貴章・林 太郎 代数学 (整数論、代数幾何学)
- ★KOHATSU-HIGA Arturo 金融など多様な分野に応用できる新しいシミュレーション方法
- ★佐藤 寛之 数理最適化、多様体上の最適化
- 多羅間 大輔・石川 元稀 力学系理論、幾何解析とその応用
- 野澤 啓・野本 統一 力学系、群作用、微分幾何
- 福本 善洋 ゲージ理論のトポロジーへの応用
- ◆藤本 雪朗・亀岡 健太郎 微分方程式の漸近理論
- ★安富 健児 確率論及び数値解析
- ◆渡部 拓也 複素領域における微分方程式

●代数学 ■幾何系 ◆解析系 ★応用数学系

物理科学科 (数学物理系)

全ての自然科学と工学の中心に、物理学がある。



最先端の専門的研究に取り組む

物理学は、自然現象に潜む法則性を明らかにし、宇宙・地球・物質・生命・社会などの「この世界はどのように成り立っているのだろうか」という本質的な問いに答えようとする学問です。めまぐるしく変化し多極化する現代社会を生き抜くための、普遍的で強靱な知的基盤を修得できるのが物理科学科です。本学科では、系統的な専門科目の学修を通じて、全ての自然科学と工学を支える、力学、電磁気学、熱統計物理学、量子力学などの基礎概念を修得します。さらに、多彩な物理学実験、データ計測・処理・解析、プレゼンテーションなどを通じて、論理的かつ定量的な思考力とその実践的な応用力を身に付けます。自然の仕組みに関する深い洞察力を養い、科学と技術を架橋する広々とした学問的視野を身に付けることで、より良い社会の創出に貢献する人材を育成することが、物理科学科の教育目標です。



・今後、科目名称等が変更になる場合があります。・「卒業研究」は必修です。卒業には上記以外も学ぶ必要があります。・上記は2026年度のカリキュラムです。

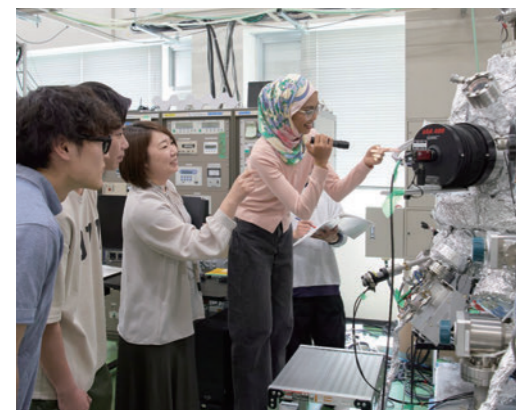
[2026年度 教員・研究テーマ一覧]

- 池田 浩章・福井 毅勇・森 達明 高温超伝導体、新しい量子相の発見を目指して
- 今田 真・中田 惟奈 電子状態の分光によるスピン物性の機構解明
- ◆川方 裕則・佐脇 泰典 地震発生メカニズム・地震波の伝わり方
- ◆小西 隆士・吉岡 潤 ソフトマターの構造形成とダイナミクス
- 是枝 聡肇・大石 栄一 先端的レーザー分光法を用いた誘電体素励起の励振と精密測定
- 清水 寧 非線形動力学 原子分子の運動に潜む非統計性
- 菅原 拓二・横山 修一 超弦理論 (超ひも理論) と素粒子の統一理論
- 滝沢 優・前島 尚行 放射光励起による原子軌道状態制御
- 鳥羽 備樹・川内 紀代恵 多波長観測で探る銀河と超巨大ブラックホールの共進化、系外惑星を主とした光赤外線天文学
- 中田 俊隆 メゾ領域の相転移、界面現象の研究
- 平井 豪 実験物理学・物理実験教育
- ◆根本 泰雄 観測地学・理科教育
- 藤 陽平 量子情報論の視点で拓く量子多体系の物理学
- ◆吉田 晶樹 地球内部ダイナミクスの数値シミュレーション
- 米田 大樹 マクロな自然現象の物理学
- 和田 浩史 生命の動き、かたち、パターンを物理と数学で解き明かす

●理論物理学 ■実験物理学 ◆地球物理学

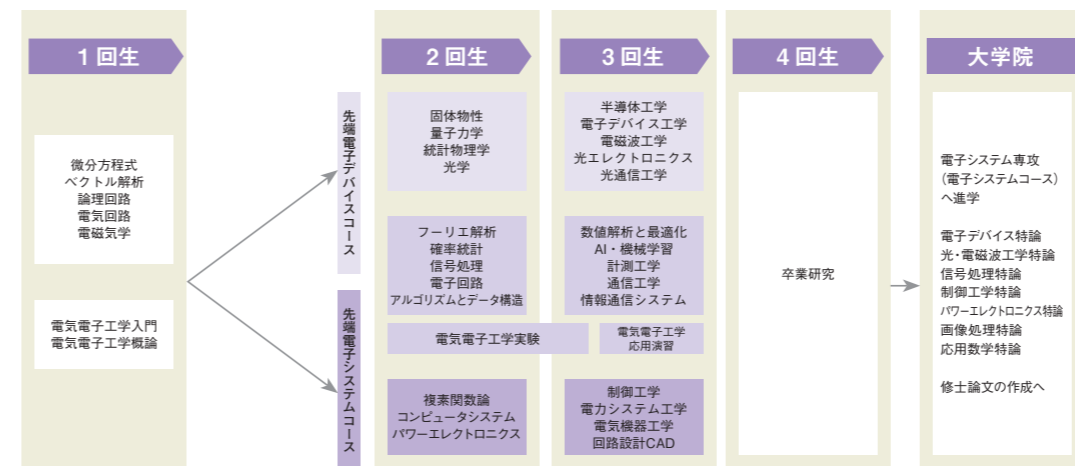
電気電子工学科 (電子システム系)

電気電子工学の技術の進化に寄与する、想像力豊かなグローバルリーダーを目指す。



半導体結晶成長実験の様子

電気電子工学は、エネルギー・情報通信などの社会基盤を支える重要な分野です。本学科は、電気電子工学の幅広い分野を網羅しながら、専門知識と技術を修得するカリキュラムを提供します。学生は、1回生で基礎となる数学・物理学を学び、2回生以降は2つのコースに分かれて専門性を深めます。両コース共通科目では、電気・電子回路、通信・計測工学、AI・機械学習など、電気電子工学の根幹を成す知識を学ぶとともに、実験・演習科目を通じてその応用力を身に付けます。これに加え、先端電子デバイスコースでは、電子デバイスの設計、作製、応用に関する専門知識を、先端電子システムコースではシステムの設計、解析、運用のための専門知識を修得します。さらに、これらの集大成となる研究活動を通じて、技術の急速な進歩・多様化に対応し新たな技術を生み出す創造性を養います。



・今後、科目名称等が変更になる場合があります。・「卒業研究」は必修です。卒業には上記以外も学ぶ必要があります。・上記は2026年度のカリキュラムです。

[2026年度 教員・研究テーマ一覧]

- 荒木 努・杉江 隆一 21世紀を担う最先端の半導体エレクトロニクス研究
- ◆宇野 重康 ナノバイオエレクトロニクス技術とデータAI量子技術
- ◆岡野 訓尚 サイバーフィジカルシステムの解析、設計、制御手法
- 柿ヶ野 浩明 電力供給システムへのパワーエレクトロニクス応用
- 川畑 良尚 インテリジェントパワーエレクトロニクス
- ◆久保 幸弘 衛星測位およびその応用技術に関する研究
- ▲佐野 明秀 光ファイバ通信システムに関する研究
- ◆鷹羽 浄剛・難波 巧 大規模ネットワークシステムのモデリング、推定、制御
- ▲瀧口 浩一 光信号処理技術と光・THz帯通信/センシング、光コンピューティングへの応用
- 田口 耕造 環境発電デバイスの高性能化に関する研究
- 中野 道彦 静電応用によるバイオ・ナノ材料のセンシング・評価・複合材料開発
- ▲野坂 秀之 6G時代のアナログ新回路アーキテクチャの研究
- ◆福水 洋平 安全・安心社会のためのマルチメディア応用技術
- ◆藤井 菜美 先進デバイスを実現するワイドバンドギャップ半導体材料の作製と応用
- 峯元 高志・原 知彦 次世代型太陽電池のデバイスモデリングと屋外実証評価
- 毛利 真一郎 原子層半導体の物性解明と次世代デバイス応用
- ▲渡邊 歴 光情報を活用した計算イメージングとレーザー加工

●エネルギーの効率的生成と有効利用 / ▲光と電子を活用した情報通信の高度化 / ■電子機器を変革するデバイス・材料 / ◆社会に貢献するシステム制御 / ●最適化

[全学科共通] 学部の専門科目とは質的に異なる、幅広い分野の知識の修得を目指す科目を複数履修することができます。→ 教養科目 P.102

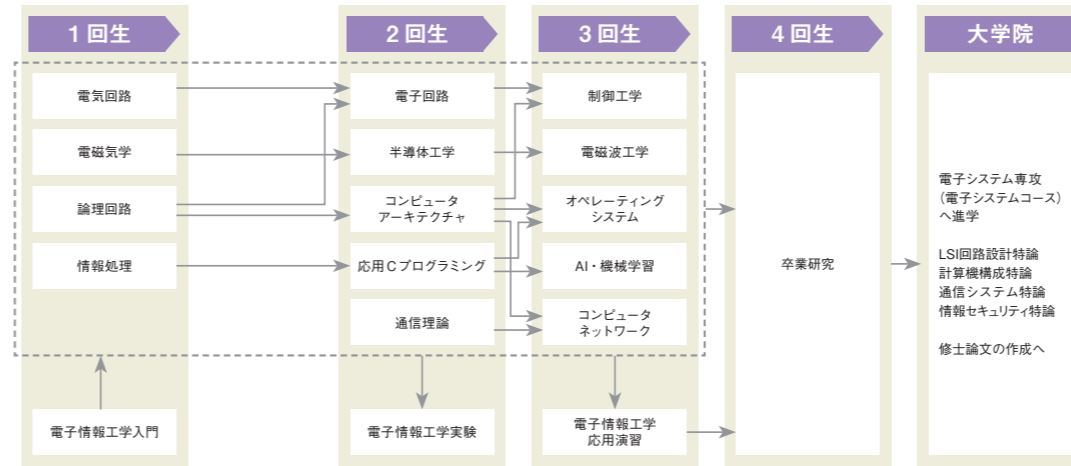
電子情報工学科 (電子システム系)

「エレクトロニクス」「コンピュータ」「情報通信」3つの分野のプロフェッショナルとして世界で活躍する。



AIを組み込んだ電子情報システムの設計

「エレクトロニクス」「コンピュータ」「情報通信」は、安心・安全な社会基盤を実現するための重要な技術分野です。電子情報工学科では、これら3分野を柱とする幅広い専門領域において教育・研究を実践しています。近年の、エネルギー、地球温暖化など地球規模の問題から、医療、情報セキュリティなど個人レベルの問題まで、それらを解決するには、数学や物理学の基本原理を理解し、電気・電子回路、コンピュータやソフトウェアなどの専門知識、ネットワーク通信やシステムLSIに関する応用知識を身に付け、電子回路設計やプログラミングなどの実践的な技術を磨くことが必要不可欠です。あらゆる分野で必須となるこれらの専門知識・技術を身に付け、国際的にも活躍できる、わが国を支える技術者を育成します。



・今後、科目名称等が変更になる場合があります。・「卒業研究」は必修です。卒業には上記以外も学ぶ必要があります。・上記は2026年度のカリキュラムです。

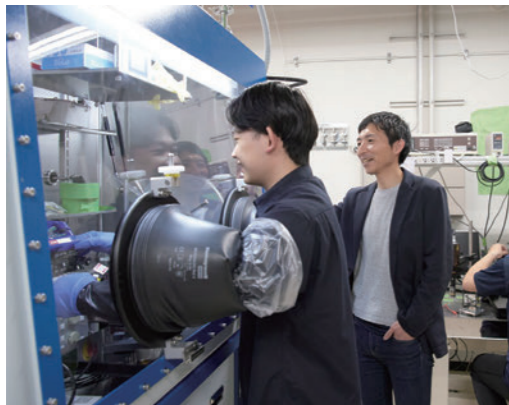
[2026年度 教員・研究テーマ一覧]

Table listing faculty members and their research topics, including AHMAD AKMAL AMINUDDIN, MOHD KAMAL, and others.

●エレクトロニクス／■コンピュータ／◆情報通信

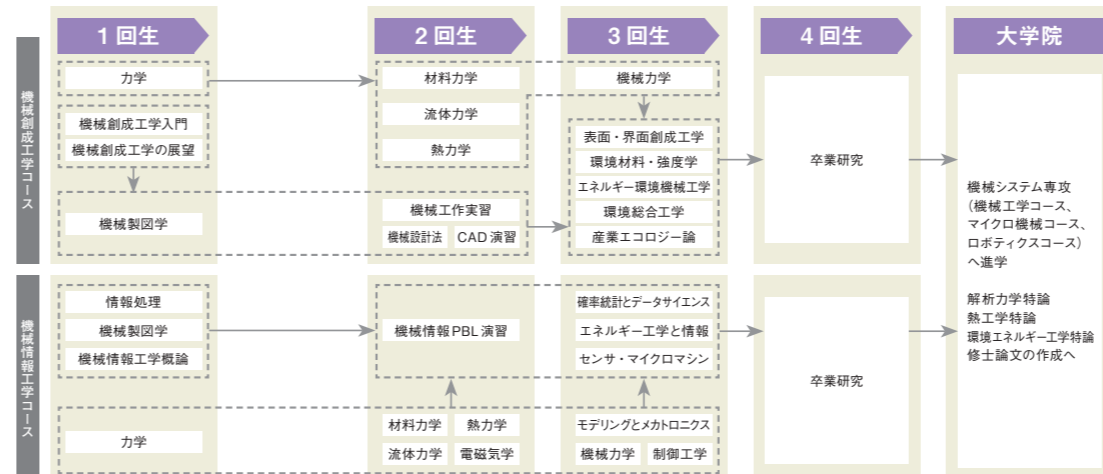
機械工学科 (機械システム系) ※機械工学科は、機械創成工学コースと機械情報工学コースの2コースで構成されています。

最先端テクノロジーを学び、産業と工業の未来を切り拓く！



機械と半導体を融合した最先端のセンサ研究

機械工学は飛行機や自動車からマイクロマシンまで幅広い分野で活躍するモノづくりの基盤を支える学問です。本学科は、材料、設計・生産、制御・システム、情報、環境・エネルギーなどの基礎から、最先端の技術までを追究する教育を提供します。また、学生の興味や目標に応じた学びを展開するために、2コース制を導入しています。機械創成工学コースでは、持続可能な社会の実現を目指し、環境やエネルギーに関連する革新的なモノづくりの能力を養うことができます。一方、機械情報工学コースでは、情報化社会で求められる機械工学の新たな可能性を切り拓く能力を養うことができます。本学科はこの2コースでの先進的な教育により、多彩な視点と実践力をそなえ、未来の産業と工業を先導できる人材を育成します。



・今後、科目名称等が変更になる場合があります。・「卒業研究」は必修です。卒業には上記以外も学ぶ必要があります。・上記は2026年度のカリキュラムです。

[2026年度 教員・研究テーマ一覧]

Table listing faculty members and their research topics, including 安藤 妙子, 磯崎 瑛宏, and others.

●材料・構造・加工分野／■マイクロ機械分野／◆熱・流体・制御分野 ※機械創成工学コース：創成／機械情報工学コース：情報

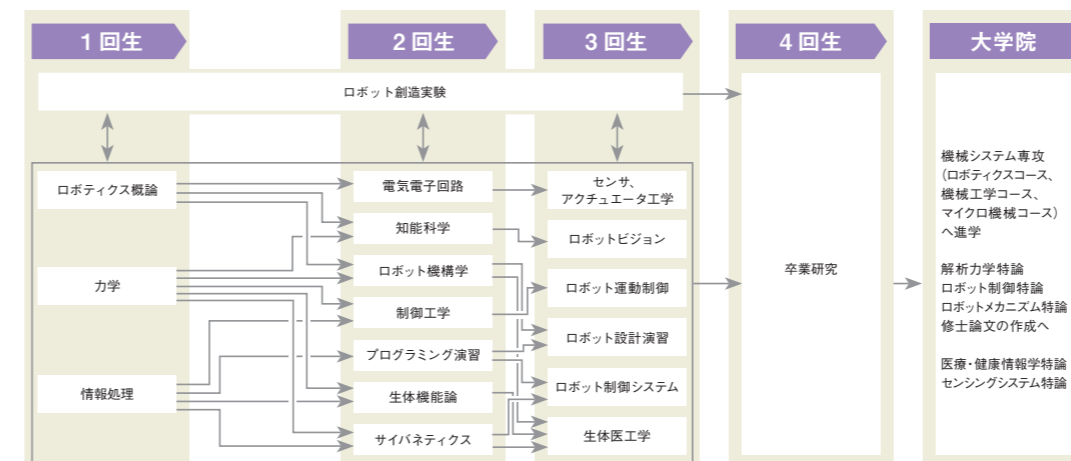
ロボティクス学科 (機械システム系)

工学分野を広く学び幅広い領域で活躍するロボット開発に挑む。



食産業自動化に向けたロボット開発

1996年に設立された、日本初のロボティクス学科です。ロボティクス学科のカリキュラムでは、ロボットの基盤となる機械工学をはじめ、電気・電子工学、情報技術やAI、さらに近年注目される「物理AI」や人間支援技術や環境関連技術まで、未来社会に必要な技術をバランス良く学修します。加えて、センサ、アクチュエータ、コンピュータなどの要素を統合し、知能を持ったロボットやシステムを創り上げるための科学と技術を修得します。多様な最先端テクノロジーに精通し、それらを自在に組み合わせ、産業用ロボットをはじめ、宇宙・海洋開発、インフラ点検、健康・医療、日常生活を支えるロボット開発へと展開できる、問題発見能力と問題解決能力を備えた技術者・研究者を育成します。卒業生は国内だけでなく国際的にも活躍し、モノづくりから医療・教育まで、幅広い分野の最前線で未来を支えています。



・今後、科目名称等が変更になる場合があります。・「卒業研究」は必修です。卒業には上記以外も学ぶ必要があります。・上記は2026年度のカリキュラムです。

[2026年度 教員・研究テーマ一覧]

Table listing faculty members and their research topics, including 上杉 薫, 植村 充典, and others.

●コントロール／■センサ／◆システム／★メカニズム

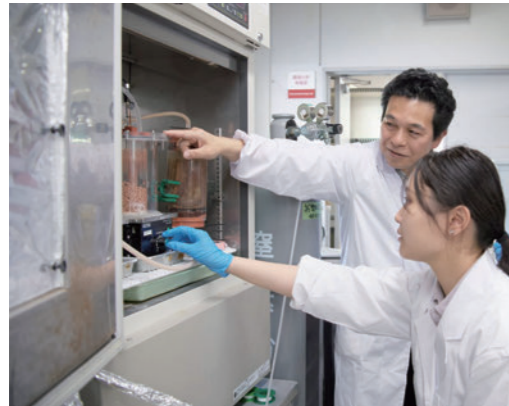
[全学科共通] 学部の専門科目とは質的に異なる、幅広い分野の知識の修得を目指す科目を複数履修することができます。→ 教養科目 [P.102]

学科紹介

科目についての詳細は [オンラインシラバス](#) [立命館](#) [検索](#) 各学科についての詳細は [理工](#) [立命館](#) [検索](#)

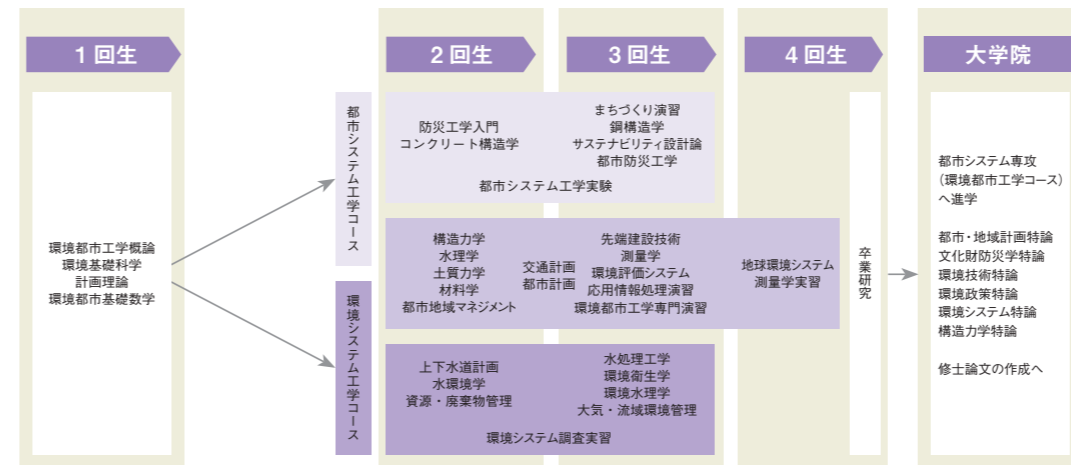
環境都市工学科（都市システム系）

環境問題の解決と社会基盤の防災を通して、SDGsの実現に貢献する。



環境都市工学専門演習（水質浄化システム）

複雑化する環境問題の解決や、激甚化する自然災害への備え、そして歴史や文化を守りつつ老朽化し空洞化する都市を再構築するためには、確かな知識を持った技術者の存在が欠かせません。環境都市工学科では、環境科学や計画理論の基礎を学んだ上で、2回生から環境システム工学コース・都市システム工学コースのいずれかを選択し、専門性を高めていきます。また「環境工学デザインプログラム（JABEEプログラム）」を履修することで、修習技術者（技術士補相当）の資格が得られます。卒業後は技術系公務員をはじめ、環境産業・鉄道・高速道路・建設会社・コンサルタント、ディベロッパーなど、より良い社会基盤の発展に係わる人材として活躍することが期待されます。豊かな環境や歴史文化と共に快適な生活を目指す本学科は、高校までに学んだ教科全ての知識を応用して生かすことができます。



・今後、科目名称等が変更になる場合があります。・「卒業研究」は必修です。卒業には上記以外にも学ぶ必要があります。・上記は2026年度のカリキュラムです。

[2026年度 教員・研究テーマ一覧]

●市木 敦之	環境管理計画策定のための現象解析及び政策分析手法に関する研究
■井上 和真	社会基盤構造物の防災・減災・危機管理に関する研究
■WELLS John Craig	洪水など水災害を防ぐための基礎研究
■大窪 健之	歴史都市の防災まちづくり計画と、伝統文化を活かした防災環境のデザイン
◆岡井 有佳	持続可能な都市の構築・マネジメントのための都市計画・まちづくり
◆小川 圭一	都市交通計画のための交通行動分析と交通現象分析
●神子 直之	安全な水道水のための物理化学的処理方法の研究
◆川崎 佑磨	社会基盤施設の防災と未来に繋がるコンクリートの研究
◆金 度源	魅力的なまちづくりのためのアーバン・コミュニティデザイン手法の研究
■小林 泰三・伊藤 真一・唐 佳潔	地盤工学のデジタルトランスフォーメーション
●佐藤 圭輔	気候変動による水資源・沿岸域の脆弱性評価と統合的流域管理法の構築
■深澤 好文	河川流域のあるべき姿を探索する
◆塩見 康博	持続可能な社会の創成に向けた交通システムの実現
●重富 陽介	持続可能なライフスタイルとそれを支える社会システムの見える化
●沈 尚	微生物とゲノム解析から解き明かす湖沼・流域の環境問題
●惣田 訓	微生物や植物を用いた水質浄化と資源回収に関する技術開発
◆野坂 克義	社会基盤施設（主に鋼構造）の設計・維持・管理（造る・守る）
◆野村 泰絵	都市基盤の維持管理と建設分野の情報化のためのマネジメント技術開発
●橋本 征二	循環型社会の評価手法とシステムデザイン
●樋口 能士	大気質・悪臭の評価と制御
■藤本 将光	山地・河川の自然環境への理解を深め、安全な暮らしを追求する
●三浦 陽介	気候変動と陸域水循環の相互作用を明らかにする

●環境を創造する / ■災害を防ぐ / ◆都市を見守る

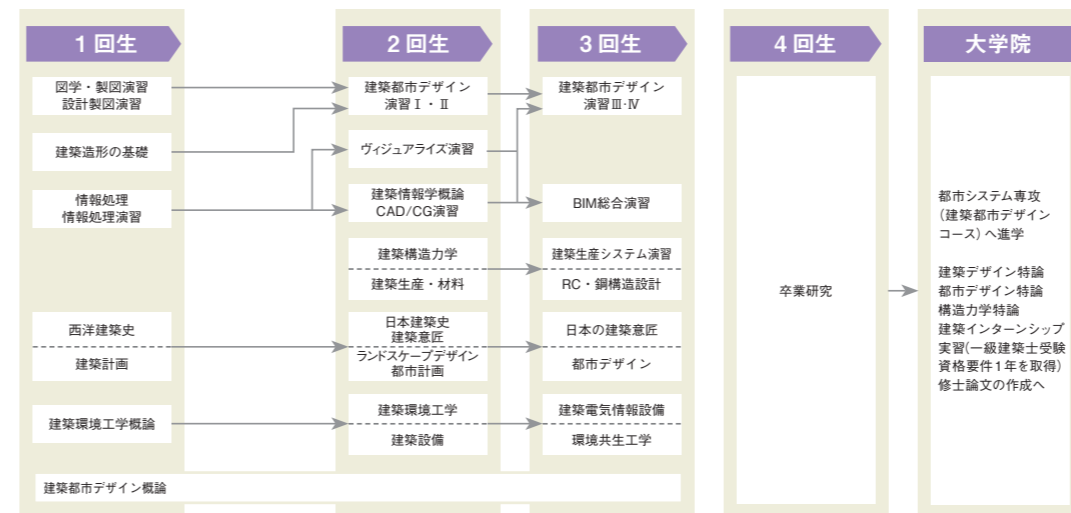
建築都市デザイン学科（都市システム系）

美しく健全な国土の実現を目指し、建築と都市をデザインする。



卒業設計の公開講評会における学生プレゼン

建築・都市に関する歴史や文化のコンテクストを読み取り、地域の個性を生かしながら、建築・都市文化を継承・創造する理論と方法を理解するために、必要な技術に関する教育研究を行います。そして、建築や都市のデザインに関する新しいニーズ、複合的な課題に応える人材を育成します。美しく健全な国土の実現を目指して、人に身近な「建築」と、その総合的環境である「都市」をデザインする能力を養うため、設計製図、歴史・意匠、都市・景観、建築計画・法規、環境・設備、構造、建築材料・生産施工、情報技術といった各専門領域を統合する教育を展開し、「建築」「都市」を創造する能力を身に付けます。1回生より各専門領域の選択必修科目を配置し、専門領域を系統的に学修します。



・今後、科目名称等が変更になる場合があります。・「卒業研究」は必修です。卒業には上記以外にも学ぶ必要があります。・上記は2026年度のカリキュラムです。

[2026年度 教員・研究テーマ一覧]

★青木 和雄	伝統木造建築の耐震性評価、新材料・新工法の開発
■青柳 憲昌	日本の建築の歴史に関する研究と歴史的建築の保存
●阿部 俊彦	都市と建築をつなぐデザイン・まちづくりアクションリサーチ
■遠藤 直久	木質構法の発展と応用
◆近本 智行	建築・都市環境工学・建築設備・環境共生
■平尾 和洋	建築設計プロセス・建築意匠（防災意匠含む）・古民家再生
★福山 智子	鉄筋コンクリート構造物や建築材料の耐久性評価・診断
◆本間 陸朗	光環境計画とその周辺技術・照明デザイン、建築電気設備設計
■宗本 晋作	新しい設計方法と被災地におけるまちづくりの実践
■山田 悟史	建築情報学による人と建築都市デザインの拡張と高度化
★吉富 信太	力学原理に基づく建築構造物の合理的設計
◆李明香	建築環境工学、建築設備、省エネルギー・建築、住環境の快適性評価

●都市・景観 / ■設計・計画・歴史 / ◆環境・設備 / ★構造・生産・材料

理工学部海外留学プログラム

理工学部で学ぶ学生にとっては、海外における研究発表や海外の企業との取引等、英語でコミュニケーションをとる機会は今後ますます増えていきます。グローバルマインドを身に付け、海外で活躍できるコミュニケーション力をつけるためには、早期に異文化を体験し、自ら発信しなければならない環境に身を置くことが重要です。また、実際に多様な環境で働く技術者に接することで、将来への目標設定や専門性を深めることも大切な経験です。

～インド派遣プログラム～

異文化・多様性社会の中で活躍できる高度理工系人材の育成を目指して、課題解決型のプログラムを実施しています。インドが直面しているさまざまな課題に対して、事前講義で調査し、その解決方法を提案します。現地研修では、インド工科大学ハイデラバード校（IITH）またはニッテ大学NMAMITを訪問し、企業訪問や施設見学を行いながら、現地の学生とディスカッションやフィールドワークを実施し、解決策を英語でプレゼンテーションします。このプログラムを通じて、科学技術への理解を深めると共に、英語によるプレゼンテーション能力の向上を目指します。



インド現地研修

～ハワイ大学留学プログラム～

2、3回生を対象とした留学プログラムです。ハワイ大学で本プログラムのために特別に用意された講座（理工系の内容の講座、ハワイの文化に関する講座）や英語学習の講座を受講します。その他にも、各種フィールドトリップやハワイ大学の学生との交流など、盛り沢山の企画が用意されています。本プログラムを通して、英語の総合的・実践的運用能力を培い、国際社会の一員として積極的な役割を担うべく、皆さんの将来展望をより具体的なものとしてください。



ハワイ大学マノア校での授業

上記以外にも、理工学部独自の海外留学プログラムを用意しています。詳細は各プログラムの募集要項で案内します。

英語教育

未来の科学者・技術者を育成するため、理工学分野での学術およびキャリア活動に応用できる英語運用能力と、プレゼンテーション、ディスカッション、批判的思考などのスキルを、高回生まで学習の継続が可能なカリキュラムで養成します。



[びわこ・くさつキャンパス]

生命科学部



■ 応用化学科 ■ 生物工学科 ■ 生命情報学科 ■ 生命医科学科

ライフサイエンスの可能性を拓げ、21世紀の人類共通の課題に挑む

21世紀は生命科学（ライフサイエンス）の時代といわれ、人の健康と社会に大きな変革をもたらす科学技術として注目されています。2001年に発表されたヒトゲノムの解明を皮切りに、生命科学は急速な発展を遂げ、科学の力で生命の謎や多くの病気の解明に迫ろうとしています。ナノテクノロジー・バイオテクノロジーを基盤にした現在の生命科学は、医療・健康分野にとどまらず、人口増に伴う食糧確保や食の安心・安全の問題や再生可能エネルギーの創成、地球温暖化への対応などのSDGsに関わる課題にも活用されています。環境、エネルギー、食糧、健康が人類共通課題となる中で、生命科学の果たすべき役割は今後ますます大きくなっていきます。

生命科学は総合科学です。あらゆる科学の領域を含み、研究対象やテーマに応じて、多様な科学の知識を活用します。扱うべき領

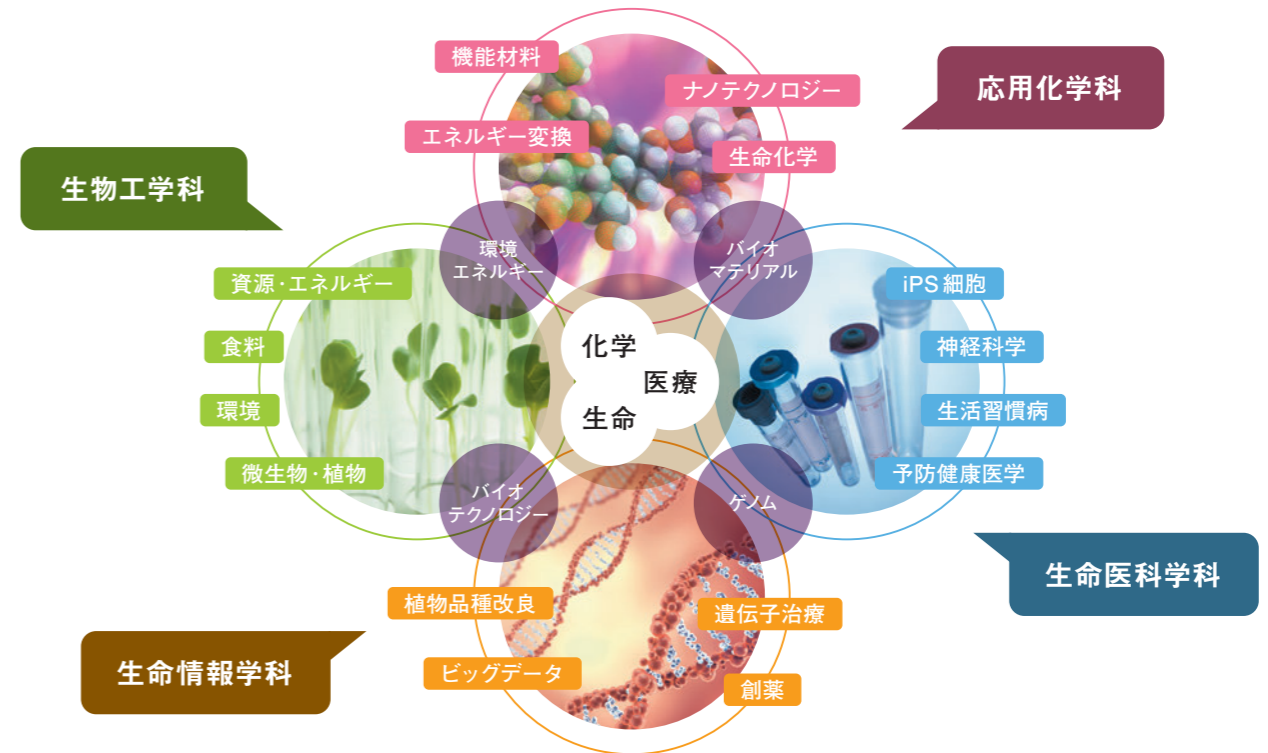
域は1つの分野には収まらず、物理学、化学、生物学、農学、工学、医学、薬学、情報科学全体に広がります。立命館大学生命科学部では、総合大学の特色を生かした学問領域を超えた学びが可能で、幅広い視点から生命科学を探究することができます。

生命科学部では、生命科学の基礎となる生体物質の機能の解明と新たな化合物や材料の創製（ナノテクノロジー）を目指す「応用化学科」、バイオテクノロジーで食糧、資源・エネルギー、環境の諸課題に挑む「生物工学科」、生命の設計図であるゲノム情報の取得と解析を通じて生命の仕組みを解き明かし、農業や医療、創薬に貢献する「生命情報学科」、分野・領域を超えたさまざまな手法を用いて医学・医療の革新を追求する「生命医科学科」の4学科を設置しています。

学びの特色

専門領域の垣根を越えた総合的な学び

生命科学の発展のためには専門性を深化させることはもちろん、異分野間の境界領域研究がますます重要になってきています。そこで、生命科学部のカリキュラムでは所属する学科の専門分野だけでなく、生命科学に関連した幅広い分野の科目も受講できるようになっています。また、卒業研究では自身の興味・関心に応じ、他学科の研究室を志望することも可能です。さらに、学部独自の英語プログラムにより、自身の研究を英語で発表するスキルを身に付けることもできます。



〈充実した実験・実習〉

最新の設備・施設を活用して質の高い実験・実習を展開

基礎から専門まで、実験・実習カリキュラムが充実。講義科目と連動させ、「理論」と「実践」の両方向から理解を深めます。ライフサイエンスの最先端研究を支える最新の研究設備や、培養実験室、低温室、放射光施設をはじめとする共同研究施設で、複数の教員と大学院生によるきめ細かな指導・サポートを受けながら、実験・実習を進めます。2021年には個人学習スペースを新設し、オンライン授業にも対応した学習スペースとして、多くの学生が利用しています。



学科紹介

応用化学科

現代化学の理論と技術を駆使して、
現代的課題に原子・分子レベルからアプローチ。

私たちは原子・分子から成り立つさまざまな物質に囲まれて生活しています。化学は物質の構造や性質、反応を原子・分子レベルで解明すること、さらに新しい物質や反応を構築していくことを目的としています。また、私たち人間を含めた生物体はタンパク質、核酸、脂質、糖質といった生体分子から成っており、化学の研究手法で生体分子とそれに関連する生体反応について探究することができます。化学は、私たちの生活を豊かにする材料科学の基盤技術として、また生命の神秘に迫る生命科学の基盤技術として大きな役割を果たしています。応用化学科では、そうした化学について学び、材料・エネルギー・生命・環境問題など社会の重点課題に挑みます。

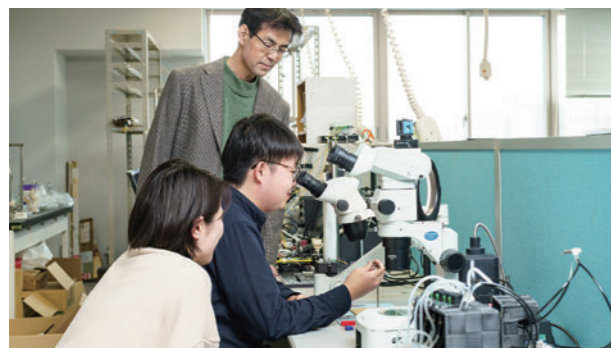


生命情報学科

ゲノムから得られる情報を用いて
生命現象を解き明かす。

人間は約37兆個の細胞からできており、その細胞一つ一つはさらに膨大な数の原子、分子からできています。生命体は、原子、分子から細胞、組織、生物個体まで、ミクロとマクロの世界を機能的に統合した巨大システムであり、これらが正しく機能するための設計図がゲノム情報です。生命情報学科では、ゲノムを調べる技術や、ゲノムから生命を見る技術を学べることが特徴です。

卒業研究では、生物発生システムの解明、体内時計などの分子機構解明やリズムを利用した脳情報処理機構の解明といった基礎研究に加え、新薬開発に向けた分子設計や食糧生産等のための植物の改良、データ駆動型疾患予防などの応用研究にも取り組みます。



生物工学科

バイオテクノロジーを通して、
食料、資源・エネルギー、環境の諸課題に挑む。

食料、資源・エネルギー、環境分野の諸課題を解決するために、化学的素養を備え、環境と生物、生物の多様性と相互作用、さらには人間社会との関連性を理解し、生物の持つ力を有効に活用できる人材が必要とされています。生物の有する特性を解き明かすとともに、その知見を農業・工学に展開する「バイオテクノロジー」を専門的に研究するのが生物工学科です。本学科では、化学、生物学、微生物学、植物生理学などの専門知識を養い、化学的基盤を理解します。さらに環境、食糧、バイオエネルギー、医療など、多様な分野にわたる学びと研究を通じて、安心・安全で持続可能な社会の実現に向けて活躍できる力を培います。



生命医科学科

医科学・医療の革新により、
人類の福祉に貢献する。

私たちは便利で快適な暮らしを送る一方で、健やかに生きるために多くの問題に直面しています。とりわけ、地球環境の変化による未知の感染症の発生や、人口の高齢化にともなう老年病の増加、がんや生活習慣病のリスクの増大など、私たちの健康に直接関係する問題への対応が求められています。生命医科学科では基礎医学・予防医学を重視した医科学教育・研究を展開。「どのような原因やメカニズムで病気になるのか？」など、生命と医療の根源的な問いにアプローチし、その成果に基づいて新しい疾病予防法、診断法、治療法の開発を進めます。さらに、基礎研究の成果を、迅速に社会生活に役立てることができる医療システムの開発にも挑戦します。



4年間の学び

	回生	1回生	2回生	3回生	4回生
学びの流れ	生命科学を学ぶ上で基礎となる数学、物理学、化学等を学修。また、生命科学技術が人や環境に及ぼす影響等を理解します。	各学科における専門科目の履修が本格的にスタート。実験・実習にも取り組み、講義で学んだ知識を一層深めます。	専門領域を体系的に学修。さらに専門領域と社会の関係について学んだり、キャリア形成のための科目を履修します。	自分の興味・関心に応じて研究室に所属し、卒業研究に取り組みます。教員のきめ細かな指導のもとで研究活動を進めます。	
基礎科目	外国語科目 英語P1 英語P2 英語S1 英語S2	英語P3 英語P4 英語S3 英語S4			
教養科目	学部の専門科目とは質的に異なる、幅広い分野の知識の修得を目指す科目を多数履修することができます。→ 教養科目 [P.102]				
応用化学科	数学・基礎科学系	アカデミック表現法 数学1 数学2 数学3 数学4 数学演習1 数学演習2 物理学1 物理学2 生物科学1 生物科学2 地球科学 情報処理 特殊講義(専門基礎)			
	講義	生命科学概論 物理学I 物理学II 分析・無機化学I 分析化学II 無機化学II 有機化学I 有機化学II 生化学1 微生物学 化学系物理学1 化学系物理学2 特殊講義(専門)2	物理化学III 分析化学III 無機化学III 有機化学III 有機分子解析法 生化学2 分子生物学 基礎環境学 バイオインフォマティクス 物理化学IV 生物物理学 機器分析化学 固体化学 有機化学IV 高分子化学 分子細胞生物学1 酵素学 遺伝子工学 放射線生物学	英語JP1 英語JP2 統計熱力学 分子分光化学 固体物性化学 エネルギー変換化学 エネルギー創成化学 生物無機化学 無機材料化学 有機工業化学 有機材料化学 生体分子機能 構造化学 タンパク質工学 生体分子機能 構造化学 応用生物化学	
	実験/演習	応用化学基礎演習1 応用化学基礎演習2 分析化学実験	有機化学実験 物理化学実験 物理学実験	生命科学セミナー 無機材料化学実験 有機・高分子材料化学実験 生物化学実験 分子生物学実験 地学実験	卒業研究1 卒業研究2
生物工学科	数学・基礎科学系	アカデミック表現法 数学A 数学B 数学C 数学D 数学演習A 数学演習B 物理学1 物理学2 生物科学1 生物科学2 地球科学 情報処理 特殊講義(専門基礎)			
	講義	生命科学概論 物理学I 物理学II 分析化学II 分析・無機化学I 無機化学II 有機化学I 有機化学II 人体の構造と機能1 生化学1 生命物理学 微生物学 特殊講義(専門)1 特殊講義(専門)2	物理化学III 分析化学III 無機化学III 有機化学III 人体の構造と機能2 生化学2 分子生物学 バイオインフォマティクス 機器分析化学 分子細胞生物学1 タンパク質・核酸の解析と機能 基礎環境学 酵素学 放射線生物学 植物生理学 遺伝子工学 生命有機化学 地球環境学 微生物生理学 食料生産科学	英語JP1 英語JP2 生体分子機能 構造化学 応用生物化学 生物環境化学 構造生物学 分子細胞生物学2 生物統計学 生体分子工学 反応工学 代謝工学 酵素工学 タンパク質工学 応用微生物学 環境微生物学 生物資源学 植物細胞工学	
	実験/演習	生物工学基礎演習1 生物工学基礎演習2 分析化学実験	有機化学実験 基礎物理化学実験 分子生物学実験 微生物学実験 顕微鏡観察基礎実験 物理学実験	生化学実験 生命科学セミナー 地学実験	卒業研究1 卒業研究2
生命情報学科	数学・基礎科学系	アカデミック表現法 数学1 数学2 数学3 数学4 数学演習1 数学演習2 物理学1 物理学2 生物科学1 生物科学2 地球科学 情報処理 特殊講義(専門基礎)			
	講義	生命科学概論 基礎物理化学 分析・無機化学I 分析化学II 基礎有機化学 基礎生命物理学 生化学1 微生物学 確率・統計 人体の構造と機能1 基礎情報科学 プログラム言語1 プログラム言語2 特殊講義(専門)1 特殊講義(専門)2	生命物理学I 生命物理学II 分析化学III 生化学2 分子生物学 分子細胞生物学1 数理生物学 酵素学 基礎環境学 遺伝子工学 放射線生物学 人体の構造と機能2 バイオインフォマティクス バイオアルゴリズム プログラム言語3 プログラム言語4	英語JP1 英語JP2 分子細胞生物学2 量子化学 タンパク質工学 計算機化学 統計熱力学 構造生物学 生物統計学 ゲーム科学 システムバイオロジー 代謝工学 プロテオミクス 機能ゲノミクス 生体機能シミュレーション 進化情報学	
	実験/演習	生命情報学基礎演習1 生命情報学基礎演習2 生物学基礎実験 統計シミュレーション実験	基礎生化学実験 ゲノムシミュレーション実験 数値シミュレーション実験 分子生物学実験 物理学実験	分子シミュレーション実験 細胞・システムシミュレーション実験 生命科学セミナー 地学実験 化学実験	卒業研究1 卒業研究2
生命医科学科	数学・基礎科学系	アカデミック表現法 数学A 数学B 数学C 数学D 数学演習A 数学演習B 物理学1 物理学2 生物科学1 生物科学2 地球科学 情報処理 特殊講義(専門基礎)			
	講義	生命科学概論 基礎物理化学 分析・無機化学I 分析化学II 基礎有機化学 基礎生命物理学 人体の構造と機能1 生化学1 微生物学 特殊講義(専門)1 特殊講義(専門)2	生命物理学I 生命物理学II 分析化学III 人体の構造と機能2 生化学2 分子生物学 分子細胞生物学1 地球環境学 公衆衛生学 基礎環境学 放射線生物学 免疫学 酵素学 タンパク質・核酸の解析と機能 発生・ゲノム医科学 バイオインフォマティクス 遺伝子工学	英語JP1 英語JP2 プロテオミクス 薬理学 機能ゲノミクス 構造生物学 生物統計学 統計熱力学 分子細胞生物学2 タンパク質工学 人体の機能と病態1 人体の機能と病態2 人体の機能と病態3 人体の機能と病態4 人体の機能と病態5 先端医科学 幹細胞・再生医学 医科生物工学 医療システム論 医療社会学 生命倫理	
	実験/演習	生命医科学基礎演習1 生命医科学基礎演習2 基礎分析化学実験 応用分析化学実験	基礎生化学実験 微生物学実験 組織学実験 分子生物学実験 物理学実験	生理学実験 生命科学セミナー 薬理学実験 地学実験 化学実験	卒業研究1 卒業研究2
初修科目	初修物理、初修生物、初修化学				

・上記は2026年度のカリキュラムです。2027年度は科目名称等が変更になる場合があります。

科目についての詳細は [オンラインシラバス](#) [立命館](#) [検索](#)

外国語の選択 [必修] 英語 国際化が進んでいる科学技術の分野において、研究成果や意見交換など、英語が標準として使われていることから、英語を専修として外国語を開講しています。

大学院生命科学研究所 (博士前期・後期課程) 学部での学びと大学院での最先端の研究を通して、エネルギー、環境、食料、医療、健康分野といった幅広い分野への応用と貢献を可能にする人材を育成します。学部と同様に、工学、理学、農学、医学、薬学を基盤とする、あるいは基盤として新たに発展した応用化学、生物工学、生命情報学、生命医科学の4つの学問分野で構成されており、学部卒業生の半数以上が進学します。生命科学研究科での学びと探究は、現代社会が抱える様々な課題にチャレンジし、より豊かな社会を創出したいと望んでいる皆さんの期待に十分に答えることができると自負しています。ぜひ、大学院進学も考えてみてください。

学び・プログラム

プロジェクト発信型英語プログラム

コミュニケーション能力を重視し、機能的な英語運用能力を育成する「プロジェクト発信型英語プログラム」を学部独自に提供しています。2つの柱の1つ「Project」では、プロジェクトを通じてリサーチ、プレゼンテーション、ディスカッション、アカデミック・ライティングなどの技能を修得し、成果を世界に発信。もう1つの柱「Skill Workshop」では「聞く、話す、読む、書く」の英語4技能を鍛えます。



教員紹介

[2026年度 教員・研究テーマ一覧]

応用化学科	
稲田 康宏	触媒と電池の反応をリアルタイムに観て機能の原理を理解し、次世代の材料開発へ
折笠 有基	高安全・高寿命な二次電池の材料設計／高効率な水素エネルギー変換の化学反応解析／次世代電池の開発
加藤 稔	極限環境など様々な環境下における生体高分子(タンパク質、核酸、および関連分子)の構造と機能の解明
桑田 繁樹	新しい金属錯体を設計し、窒素、二酸化炭素などの不活性小分子の変換に応用する
越山 友美	「生体分子」と「人工分子」の複合化による新たな化学反応制御場の構築
小林 洋一	光機能材料の未踏の機能開拓と新物質合成
五月女 宣裕	分子触媒・酵素を用いた新反応を開発し、独自の生命制御分子をつくる
高木 一好	酸化還元酵素と酸化還元コファクターの基礎と応用
堤 治	ナノテクノロジーを駆使した「分子デザイン」と「分子集合状態制御」により高分子で未来材料を創製
長澤 裕	フェムト秒超短パルスレーザーにより分子運動を観測し、光合成等の光化学反応がどのように起こるか研究している
花崎 知則	新規な機能性有機材料を設計・合成しその応用の可能性を探る
前田 大光	電子・光機能性をもつ色素分子をデザイン・合成して、これまでにない超分子をつくる
大賀 まゆみ	英語教育およびEM(英語を媒介とする授業)における教員の言語使用に関する研究
鐘 承超	固体電解質を目指した複合アニオン化合物の開発
木原 和輝	立体選択的合成を指向した新規鎖状有機触媒の合成および改良型分子プローブ開発への応用
登坂 俊行	膜タンパク質と人工分子の融合による化学反応場の制御
永井 邑樹	分子集積に基づく新奇な刺激応答性光機能材料の開発
堀田 拓希	π電子系を基盤とした機能性超分子構造の構築
松本 浩輔	実験と情報科学を組み合わせた新規機能分子・材料創成
中尾 俊樹	非天然脂質及び脂質類似化合物の創成と評価
松本 健太	機能性有機材料の実験的・計算化学的アプローチによる自己組織化現象の解明と応用展開の探索

生命情報学科	
天野 晃	細胞内の仕組みを詳細にモデル化した細胞モデルを使って組織や臓器の機能を再現しそのメカニズムを解明する
伊藤 將弘	データ駆動型サイエンスを用いた稀少疾患および生命システムの解明
木津川 尚史	リズムを操るニューラルネットワーク：脳に学び脳情報処理の解明を目指す
高橋 卓也	生命構造情報と機能情報を結びつけ、未来の社会に活用する
寺内 一姫	光合成生物の環境適応力と体内時計のしくみを探る
富樫 祐一	情報処理機械としての生物を数理モデルを用いて理解する
深尾 陽一朗	植物の環境ストレス耐性機構の解明と農業への応用
後藤 秀貴	日常言語に潜む比喩表現の認知言語学的分析および英語教育におけるAI活用の可能性と課題の探究
姫野 友紀子	数理モデルに基づく生体機能のマルチスケールシミュレーションで身体のダイナミズムを理解する
井上 真男	40億年にわたる生命進化の情報を読み解き、微生物の未知の機能・遺伝子の開拓と新技術の創出を目指す
大山 克明	体内時計の仕組みから、タンパク質が機能する分子機構を明らかにする
久保田 幸彦	体の成り立ちと組織の恒常性維持を支える細胞動態を調節するしくみの解明
多羅岡 ゾンヤ	数値モデリングを使ってソフトマターと生物におけるフィードバック作用の影響の解明
肥喜里 志門	分子動力学及び溶液理論の観点から生命現象の理解を目指す
吉竹 悠宇志	ストレス環境下における植物代謝応答の理解と応用を目指した分子レベル・細胞レベルでの解析
片野 和馬	植物の受粉メカニズムおよび生殖器官における熱ストレス応答の解析

化学・生物駆け込み寺

生命科学を理解するには、さまざまな分野の知識が必要です。生命科学部では化学・生物駆け込み寺という制度を実施し、開講期間の授業日には毎日開催しています。高校で未履修の科目に対する不安や、日々の講義や実習で抱いた疑問の解決に向けて、大学院生を中心とする講師がサポートします。また、化学・生物分野以外にも情報分野(プログラミングなど)にも対応します。



詳しくはこちら ▶



生物工学科	
石水 毅	植物細胞壁多糖・フラボノイド配糖体の生合成・分解・役割解明／それらの農作物・食品生産への応用
笠原 賢洋	植物の光に対する細胞・生物応答、およびcAMPシグナル系の分子機構に関する研究
竹田 篤史	植物と病原体のせめぎ合いを分子レベルで明らかにし、病気に強い品種を作出することを目指しています
武田 陽一	有機合成化学と分子生物学的手法を駆使して、糖鎖・タンパク質・脂質などの生体内での機能解明を目指しています
松村 浩由	ヒト・植物・細菌のタンパク質の機能・相分離性・構造を調べ、改良した酵素・薬を作ること、地球環境の改善と創薬を目指します
三原 久明	微生物の多様な代謝経路と酵素の機能を解明し、様々な分野への応用を目指す
山中 司	プロジェクトの手法を用いた大学英語教育の有効性とその評価に関する研究
若山 守	酵素および発酵を利用した有用物質生産法の開発および発酵に関わる微生物の特性解析
竹俣 直道	第三の生命ドメイン「アーキア」のゲノム構築原理を理解し応用する
青野 陸	微生物における物質変換機構の解明とその応用技術の開発
上原 了	RNA/DNAハイブリッドの形成と分解を伴うゲノム恒常性維持機構の解明
家門 絵理	植物の道管細胞における細胞壁・細胞骨格制御機構の解明
齊藤 大幹	根から感染する病原菌と植物の相互作用の解明を通して、病気が起きにくい栽培体系の確立を目指す
平 啓人	合成糖鎖プローブを利用した糖鎖認識タンパク質の機能解析による生命現象の解明
高島 智也	真菌細胞壁多糖の分解酵素および分解産物の構造と機能と利用に関する研究
TRAN QUOC THINH	微生物に関連する土壌環境／農業資材からのリンおよび窒素の回収技術の開発
豊竹 洋佑	発酵微生物の代謝に関する生理的・生化学的研究とその応用
山浦 昂大	超好熱菌のゲノム維持機構に関する研究
山本 千愛	植物の有性生殖におけるシグナル伝達機構に関する研究
越智 杏奈	環境微生物によるセレン化合物の物質循環の分子機構の解明

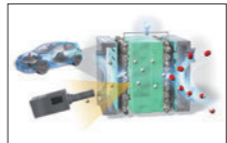
生命医科学科	
川村 晃久	体細胞初期化および幹細胞分化の分子機構とその再生医学への応用
白壁 恭子	細胞間コミュニケーションを司る膜タンパク質プロセシングの解明
立花 雅史	免疫応答を抑制する細胞をターゲットとした疾患治療法の開発
田中 秀和	脳神経回路の構築とリモデリングと病態
早野 俊哉	タンパク質間ネットワーク解析によって病気の発症機構を明らかにする
向 英里	糖尿病の病態と発症の解明およびその治療と予防に向けた研究
山下 美朋	英語ライティング指導と、特定目的のための英語(English for Specific Purposes)の特徴を分析する研究
森脇 健介	統計解析・数理モデルにより医療技術の費用対効果を評価し、限られた医療費での健康寿命の最大化を支援する
中谷 仁	自閉症などの発達障害の生物学的病因の探求
伊藤 寿宏	代謝制御が免疫抑制細胞の分化に与える影響の評価
澤野 俊憲	脳梗塞時の多彩な組織反応にミクログリアが果たす役割の解明
林 紗千子	細胞内環境の安定化に寄与するtRNAイントロンの分子機構と統合的役割の解明
原田 恭弘	胎生期における心臓エンハンサーアトラスの創出とその小児循環器病／再生医学への応用
毛利 晋輔	生活習慣病の予防・改善を目指した「食」に含まれる機能性成分の解明およびその応用に向けた研究

研究紹介

応用化学科

カーボンニュートラルのキーテクノロジー：
二次電池・燃料電池・水電解の機構解明 折笠 有基 教授

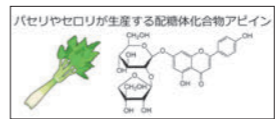
二次電池や燃料電池、水素製造のための電気分解は、カーボンニュートラル社会の実現に向けて利用拡大が進む中、高性能化が強く求められています。これらのデバイスには化学と深く関わる材料が多く用いられており、性能向上のためには化学反応を正しく理解することが不可欠です。さらに、より長寿命で安全性が高く、迅速に動作する技術が求められています。私たちは、現象の解明と新規材料の開発を通して、現代の生命と密接に関わるエネルギー・環境問題の解決に挑んでいます。



生物工学科

植物糖鎖に作用する酵素の解析と
植物糖鎖の機能解明 石水 毅 教授

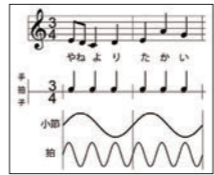
植物は光合成により作られた糖を使って、デンプン・ペクチン・配糖体化合物(下図)など、さまざまな糖鎖を合成しています。バイオエコノミーの推進に伴い、食品成分やエネルギー資源として利用される植物糖鎖の需要が高まっています。私たちは、植物糖鎖に作用する酵素を解析して、糖鎖の合成の仕組みや糖鎖の機能を調べています。これらの研究成果は植物糖鎖の食品成分やエネルギー資源としての利用にも活かされます。



生命情報学科

脳情報処理の原理を探る：
リズムから読み解く神経情報処理 木津川 尚史 教授

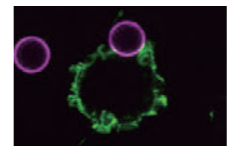
何かしていて、うまくいってるとき、リズムを感じます。調子よく歌いながら手拍子したら、気持ちよくリズムに乗れますね。このとき、私たちの頭の中では大小のリズムがうまく組み合わせられているのです。脳の中には様々なリズムがあり、その組み合わせが脳の情報処理において重要な機能を果たしています。脳がどのように情報を処理しているのか、行動しているマウスから神経活動を記録して研究を進めています。



生命医科学科

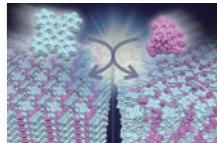
細胞間コミュニケーションを司る
膜タンパク質プロセシングの解明 白壁 恭子 教授

生物を形作る様々な分子の中で、生命現象を生み出す原動力となるのはタンパク質です。タンパク質には状況に合わせて形や機能を変化させるといった特長があるからです。私たちは、細胞の表面のタンパク質が刈り取られるという、細胞同士のコミュニケーションを制御するタンパク質の変化を研究しています。その成果は細胞同士のコミュニケーションが乱れることで生じる様々な病気の発症機構の解明や治療方法の構築につながると考えられます。



ナノの世界の探索：
電子・光機能性分子の超分子集合化 前田 大光 教授

精密に設計された生体分子(究極の「超分子」!)を凌駕する機能性を持つ分子や集合体を開発しています。骨格や周辺ユニットを適切にデザインして合成した色素分子(動きやすい電子を持っています)を適材適所に配置することで、個々の分子にはない物性を示す(1+1が2を超える)超分子集合体やナノスケール組織構造、有機エレクトロニクス材料を創製し、とくに色素分子への電荷の付与による新機能の創出に挑戦しています。



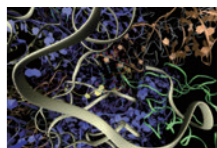
糖鎖と脂質の精密合成による
生命現象の分子基盤解明 武田 陽一 教授

糖や脂質などの分子が生命を支える仕組みを、化学合成した分子を使って解き明かすことを目指しています。糖鎖がタンパク質の折りたたみや細胞内機能に与える影響や、細胞膜をつくる脂質の役割を、自分たちで合成した生命分子やその類縁体を用いて分子レベルで探究しています。さらに、植物細胞壁の複雑な糖鎖を精密合成し、植物における糖鎖を介した生命機能の解明にも挑んでいます。



計算機としての生物を、
計算機を使って考える。 富樫 祐一 教授

「生きることは、計算だ。」私たちは、生命システムの本質は情報処理にあると考え、その仕組み—計算機としての生物—を、数理モデルを用いて理解することを目指しています。例えば、生物をつくる分子が分子を見分ける仕組みを、分子の動きや形の変化をシミュレーションで再現してとらえようとしています。さらに、化学反応と生態系が同じ方程式で表されるような場合もあるのが、数理的・理論的な研究の面白いところです。



医薬品・医療機器の多面的価値を評価し、
政策上の意思決定を支援する 森脇 健介 准教授

医療技術評価 (HTA) と呼ばれる、医薬品などの医療技術の導入が社会に与える影響を評価する政策研究を行っています。とくに、医療技術の費用対効果のエビデンスは近年、大きな関心事となっており、保険給付の判断や価格設定などの政策上の意思決定に活用されています。私たちは、こうした国際的な流れに沿って、臨床試験の統計解析やシミュレーションを駆使して、医療技術の費用対効果を含む多面的な価値を評価する研究活動を行っています。





[びわこ・くさつキャンパス]

薬学部



■ 薬学科 (6年制) ■ 創薬科学科 (4年制)

高度化・多様化するフィールドに対応し、 目指す進路に合わせて学べる2学科体制を採用

薬の種となる有効な物質の発見から始まり、その物質を薬として育て、さらに必要とする患者さんに供給することで、人類の健康へ貢献する学問が薬学です。薬学は、物質を扱うための化学や、薬が生体に与える影響を考えるための生物学などの基礎学問をベースにした総合的な学問分野です。立命館大学薬学部では、「薬を創る」、「薬の作用を理解する」、「薬を正しく使う」という3つのカテゴリーを将来の進路に合わせて学び、薬学のエキスパートとして社会で活躍できる人材を養成するために、薬学科(6年制)と創薬科学科(4年制)を開設しています。

「薬の作用を理解する」というカテゴリーは、薬学科・創薬科

学科ともに共通して学び、薬がなぜ効果を示すか、生物学的・化学的視点から理解を深めるとともに、個々の薬の特徴をしっかり修得できる多くの科目が準備されています。薬学科では医療人として「薬を正しく使う」分野・領域を学び、薬の知識だけでなく、医療人としての高い知識と豊かな人間性をそなえ、医療現場で必要となる研究マインドを持った薬剤師を育成します。一方、創薬科学科では、人類に貢献できる発見を生み出すために「薬を創る」分野・領域を深く学びます。いずれの学科も高度な専門知識と研究力を有し、医療機関・企業・行政・研究機関で国際的に活躍できる人材を育成します。

学びの特色

薬学部で学ぶ英語での情報発信力

薬学部では、国際化が進むライフサイエンス分野に対応するため、英語教育を必須としています。薬学部の英語教育はネイティブ教員により徹底的な訓練でスキルを総合的に高める「スキルワークショップ」と、興味に応じたテーマや医療・医薬に関する専門分野で発表を行うことで英語運用能力・情報収集能力・プレゼンテーション能力を身に付ける「プロジェクト」英語の2本柱で構成されています。また、薬学部は、カナダのトロント小児病院(SickKids)、トロント大学薬学部やブリティッシュコロンビア大学薬学部などと留学・交流協定を結んでおり、独自の留学プログラムを提供しています。SickKidsはトロント大学の関連病院で、世界最先端の医療現場でカナダの医療制度や薬剤師業務を学び、病棟での臨床体験や症例検討会に参加することで、国際的な視野を身に付けることを目的とした薬学科5年生対象のプログラムです。このほか、創薬科学科・薬学科・大学院生を対象にしたトロント大学薬学部での短期研究留学プログラムも実施しています。また毎年、トロント大学薬学部の PharmD コース学生を受け入れ、演習授業や研究活動を通じて本学学生と共に学ぶ短期研修を実施しています。学部内で日常的に国際交流を体験できる点は、立命館大学薬学部ならではの魅力です。



薬学キャリア演習で将来のビジョンを考える

薬学部の学生が将来のキャリアを具体的にイメージし、必要なスキルや知識を身に付けるための実践的な演習科目です。

本演習では、立命館大学と協定[※]を結んだ企業等での実務に準じた就業体験を通じて、具体的な業務内容や企業風土、仕事のやりがいなどを体感し、自らのキャリア選択の視座を高めることに加え、大学での学びを実社会でどう生かしていくかを学びます。具体的な話を聞くだけでなく、見学や製品デモの取り扱いを行う等、実践的な学びを得ることができます。本演習は、学内での事前・事後学習を行うことで、学びを定着できる演習となっています。

※株式会社ジャパン・ティッシュエンジニアリング、株式会社ビジョンケア/独立行政法人神戸市民病院機構、シミックホールディングス株式会社の教育と研究の連携・協力に関する協定を締結しています。



[2026年度 教員・研究テーマ一覧]

化学系・物理系薬学
井之上 浩一 臨床化学・食品衛生学・レギュラトリーサイエンスを目指した新たな分析化学
北原 亮 タンパク質の立体構造解析に基づく創薬応用
古徳 直之 有機合成化学を基盤としたケミカルバイオロジー研究
菅野 清彦 物理化学理論に基づく医薬品の製剤設計および機能評価
土肥 寿文 持続可能な合成手法の開発と有用物質の創製研究
豊田 英尚 糖鎖機能の解明と再生医療への応用
林 宏明 薬用植物の多様性の解析と応用
北村 雅史 分子生物学的手法による薬用資源の機能性解析と応用研究
森本 功治 新しい分子変換反応の開発と、生体関連分子の効率的合成法への応用
泉川 友美 グリコサミンogリカンを含む糖鎖の機能解明とそれらの医薬品開発および再生医療への応用
高山 卓大 Omicsアプローチによる病態の解明・早期診断及び創薬への展開
生物系薬学
芦田 昇 線維化抑制・組織再生のための遺伝子治療の開発
天ヶ瀬 紀久子 難治性消化器疾患の病態解析ならびに予防・治療法の探索
梅原 崇史 エピゲノムを再構成して操作する
小池 千恵子 網膜ネットワークダイナミクスの統合的研究：再生医療への基盤を築く分子、細胞、組織、機能からの階層横断的解析
鈴木 健二 細胞内情報伝達系に焦点を当てた薬物標的の探索
中山 勝文 病原微生物に対する免疫応答機構を解析する
林 嘉宏 がんの病態解明とアンメットメディカルニーズを充たす新規治療法開発
柳沢 大治郎 脳科学と薬理学を基盤とした創薬研究
市村 敦彦 統合的解析による細胞内シグナル制御機構と生理機能の解明
河野 貴子 細胞機能を制御するシステムの動作原理の解明
藤田 隆司 代謝性疾患における免疫の役割
池田 貴子 環境の変化に応じた生体恒常性維持機構の解明
井上 沙奈 抗がん剤誘起性腸炎における治療過程の解析

上野 明希子 網膜 ON 型双極細胞におけるカチオンチャネル転写制御機構の解明
高橋 慧 造血管腫瘍に対する新規治療提案
田中 亨 組織線維化に対する治療法の開発とその機序の解明
医療系薬学
角本 幹夫 テーラーメイド薬物療法を目指した医薬品の適正使用に関する研究
桂 敏也 薬物代謝酵素・トランスポーターの機能・発現変動に関する研究
藤田 卓也 薬効・薬物動態を規定する生体因子の解明を目指した新規 microphysiological system (MPS) の開発・評価
上島 智 個別化薬物療法を指向した薬物動態と薬効に関する速度論的解析
高田 望 疾患特異的ヒトオルガノイドの開発と、再生創薬スクリーニング基盤の確立
野田 哲史 臨床的疑問の解決を目指した医療薬学研究
関宮 弘晃 データに基づく医薬品の臨床的・経済的評価と政策研究
池之上 達哉 タンパク質相分離現象の物理化学的理解と制御
野村 祥子 薬の動態や相互作用を解明し、適正に使用する
若井 恵里 ドラッグリポジショニングによる新規治療薬の開発
情報科学・医療情報系薬学
荒木 通啓 デジタルヘルス・バイオ
薬学系英語
近藤 雪絵 学習者主導の授業運営方法と薬学生のための英語学習教材の開発およびコアパスを利用したディスコース分析
阪上 潤 視覚情報を用いた英語発音・リスニング指導
薬学系教育
上田中 徹 構造と機能の関係性を核とする有機化学基盤型薬学教育の実践
坂口 裕子 線虫を用いた化学物質の影響評価 小中高生に対する薬育活動における大学教員の役割とその教育的意義
三浦 信広 薬学系における物理の基礎教育に関する研究と教材の開発
吉田 徳之 多職種連携を意識した「逆引き型」生物学教育の実践と臨床的思考力への影響評価

詳しくはこちら ▶



学部 の 学び

薬学部では、6年制薬学科と4年制創薬科学科の両分野が融合的に展開しながら、これからの薬学の発展に寄与することを目指し、2学科体制で薬学教育を行っています。低回生時は、両学科ともに、薬学に必要な数学、化学、生物学や物理学などの学びを深め、科学的な思考力を育成し、土台を築きながら、化学系薬学・生物系薬学・物理系薬学・医療系薬学といった専門科目へと進んでいきます。4回生以降は、薬学科では「薬を正しく使う」臨床薬学分野を、創薬科学科では「薬を創る」創薬研究分野を中心に学びます。進路に応じた専門教育を通じて、大学院進学や将来の専門職につながる実践力と高度な知識を身に付けます。

薬 学 科 (6年制)

次世代医療人としての ビジョン形成につながる早期体験学習

薬学科1・2回生では、切れ目のない小集団教育を行うため、「薬学基礎演習A・B・C」、「コミュニケーション演習」、「薬学概論」、「薬学応用演習」という科目を配置しています。「薬学基礎演習」および「薬学応用演習」の中で、病院薬剤部、薬局、製薬会社など、薬学科卒業生が活躍している実際の施設を訪問します。薬剤師が活躍するさまざまな職場を見学し、ディスカッションすることで、医療人である薬剤師に求められる倫理観を身に付け、将来医療に携わる者としての意識と学習意欲を高めます。また小集団でのグループ討論の中で、新しい思考や自発的な気づきから、医療人としての基本を身に付けることができます。



多職種連携教育プログラム (他大学医療系学部との合同教育)

薬学科では「多職種連携教育プログラム」を滋賀県内の他大学医療系学部と合同で実施しています。医師・薬剤師・看護師等になってから他の職種・職能を知るのではなく、学生の中からお互いに将来の医療人としての価値観を共有することで、医療チームにおいて、患者によりよい医療を提供できる人材の育成に努めています。「高齢者と家族の暮らしについて考える」をテーマとし、2025年度は、5校合計340名が立命館大学びわこ・くさつキャンパスに集まりました。テーマ中の課題について、医・薬・看護・リハ生の混成で小グループ内のディスカッションを行い、それぞれの立場において多様な視点があることを学ぶことを目的としています。

外国語の選択 [必修] 英語

・下記は2026年度のカリキュラムです。2027年度は科目名称等が変更になる場合があります。
 ・学部の専門科目とは質的に異なる、幅広い分野の知識の修得を目指す科目を多数履修することができます。 → 教養科目 P.102

基礎研究と臨床実務の両面の実践教育

3回生後期から6回生前期は、薬学部教員の研究室に配属され、「卒業研究A・B・C・D」を履修します。その成果は、6回生時の卒業論文発表会で発表し、卒業論文としてまとめます。卒業研究と並行して、4回生時には学内の模擬薬局内で「医療薬学実習A・B」および「実務前実習」を受講します。実務家教員および医師免許を有する教員の指導のもと、薬剤師として相応しい行動や倫理観について実践を通して学びます。5回生時の「病院・薬局実務実習」の受講も併せ、高度な実習・研究活動を通じ、医療人として必要となる知識・技能・態度を確実に修得して薬剤師の資格取得を目指します。



●必修科目	1回生担当		2回生担当		3回生担当		4回生担当		5回生担当		6回生担当	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
アドバンスト科目(170以上※アドバンスト科目以外の選択科目6単位を含む)	化学系・物理系薬学 ●有機化学A ●物理化学A ●分析化学A	●有機化学B ●物理化学B ●機器分析化学	●有機化学C 有機分子解析法 物理化学C 分析化学B ●生薬学	有機化学D ●実践有機化学 ●放射化学 ●天然物化学	●医薬品製造学 生体分子解析法	構造生物学 ●和漢薬論						
生物系薬学		●解剖・生理学A ●生化学A	●解剖・生理学B ●生化学B ●分子細胞生物学 ●薬理学A	●微生物学 ●免疫学 ●衛生化学 ●薬理学B ●生物統計学演習	●環境衛生学 ●薬理学C プロテオミクス	●毒性学 ●応用薬理学演習 再生医療学 分子神経科学	●公衆衛生学 バイオインフォマティクス					
医療系薬学				●病態・薬物治療学A ●製剤学・物理薬剤学A	●病態・薬物治療学B ●感染症学 ●生物薬剤学 ●製剤学・物理薬剤学B ●日本薬局方概論 ●医療倫理	●病態・薬物治療学C ●薬物動態学 薬物送達学 ●医薬品情報学 ●医療コミュニケーション 医療社会論 データサイエンスと薬学	●病態・薬物治療学D ●臨床薬剤学A ●薬物療法学 ●臨床薬剤学B ●薬物療法学 ●調剤学 ●薬事法規・薬事制度					
実習		●分析化学実習A ●分析化学実習B	●有機化学実習A ●有機化学実習B	●物理化学実習A	●生化学・分子生物学実習 ●生薬学・天然物化学実習 ●衛生化学実習	●薬理学実習 ●微生物学実習 ●薬剤学実習	●医療薬学実習A ●医療薬学実習B	●実務前実習	●病院実務実習 ●薬局実務実習			
卒業研究						●卒業研究A	●卒業研究B	●卒業研究C	●卒業研究D			

創 薬 科 学 科 (4年制)

●必修科目 ○選択必修科目	1回生担当		2回生担当		3回生担当		4回生担当	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
※選択必修科目(95以上※専門科目8単位以上を含む)	化学系・物理系薬学 ●有機化学A ●物理化学A ●分析化学A	●有機化学B ●物理化学B ●機器分析化学	●有機化学C 有機分子解析法 物理化学C 分析化学B ●生薬学	有機化学D ●実践有機化学 放射化学 ●天然物化学	医薬品製造学 生体分子解析法	○合成化学 構造生物学 和漢薬論	○香粧品学 ○食品化学	
生物系薬学		●解剖・生理学A ●生化学A	●解剖・生理学B ●生化学B ●分子細胞生物学 ●薬理学A	微生物学 免疫学 ●衛生化学 ●薬理学B システムバイオロジー ケミカルバイオロジー ●生物統計学演習	環境衛生学 薬理学C プロテオミクス バイオインフォマティクス	毒性学 ○再生医療学 ○分子神経科学	公衆衛生学 ○次世代創薬 ○免疫医薬品学	
医療系薬学				●病態・薬物治療学A ●製剤学・物理薬剤学A	病態・薬物治療学B 感染症学 ●生物薬剤学 製剤学・物理薬剤学B ●日本薬局方概論 医療倫理	病態・薬物治療学C ●薬物動態学 薬物送達学 医薬品情報学 ○データサイエンスと薬学	病態・薬物治療学D 臨床薬剤学A 薬物療法学 薬事法規・薬事制度 漢方医療薬学	臨床試験概論 医療統計学
実習		●分析化学実習A ●分析化学実習B	●有機化学実習A ●有機化学実習B	●物理化学実習A ●物理化学実習B	●生化学・分子生物学実習 ●生薬学・天然物化学実習 ●衛生化学実習	●薬理学実習 ●微生物学実習 ●薬剤学実習		
卒業研究						●卒業研究A	●卒業研究B	

研究者としてのビジョン形成につながる演習・実習

創薬科学科1回生では、「創薬科学基礎演習」において、製薬企業や研究機関における仕事や研究について小集団で調査・議論します。その後、企業や研究機関を訪問して創薬のプロセスや研究機関の役割について学び、結果をまとめてプレゼンテーションを行います。化学系・物理系薬学、生物系薬学、医療系薬学の専門領域を系統的に学習するとともに、有機化学実習や物理化学実習といった基礎実習により、実験の基本手技を身に付けます。これらの科目や実習の履修を通じて、3回生で配属される研究室で「卒業研究A・B」を行うための基礎を修得します。



創薬に直結する専門科目の学び

薬学専門科目に医療系薬学科目が加わり、各専門科目をバランスよく学習します。データサイエンス関連科目の選択も可能です。科目選択の参考として化学系創薬研究者、生物系創薬研究者、臨床開発・医薬情報担当者の3つの履修モデルを設定しています。モデルに沿って履修することで将来の進路を見据えた確かな知識・技能を修得します。また、3回生後期からは薬学部教員の研究室に配属され、関心あるテーマに沿って卒業研究に取り組み、4回生時の卒業論文発表会で発表し、卒業論文としてまとめます。

より高度な研究開発者を目指す実践教育

薬学部創薬科学科を卒業後は多くの学生が大学院に進学し、「薬を創る」分野・領域をより実践的に学び、高度な専門知識と研究能力を身に付けます。大学院博士前期課程では、専門領域の学びはもちろんのこと、日々の研究成果を国内外の学会で発表したり、国際誌に論文発表する発信力を養います。国内外の研究機関・研究者との交流や、短期研究留学プログラムに取り組むことにより、国際的に活躍できる研究者を目指します。



(注意事項) 年度により、開講期間(春学期・秋学期)がカリキュラム表とは異なる場合があります。授業時間割表で確認してください。※クォーター開講の場合があります。詳細は授業時間割表で確認してください。